

令和6年度  
研究紀要

研究主題

主体的に探究する児童の育成  
～ESD(持続可能な開発のための教育)の推進～



# 令和6年度 研究紀要 目次

はじめに	1
I 研究の概要	2
II アンケート結果	5
III 授業研究実践事例	
○第1学年	12
○第2学年	21
○第3学年	29
○第4学年	39
○第5学年	48
○第6学年	55
IV 成果と課題	63
V 参考資料	
おわりに	

## はじめに

校長 伊藤 修久

2024年11月11日～11月24日（2日延長）、アゼルバイジャン・バクーにおいて、国連気候変動枠組条約第29回締約国会議（COP29）が開催されました。

このように世界には、気候問題だけでなく環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な課題が存在しており、それを解決しようと我々人間は、議論を重ねています。

変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていく必要があります。

学習指導要領前文では、「一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともにあらゆる他者を価値のある存在として尊重し多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となること」が求められています。そのために持続可能な社会づくりに求められる価値観や行動が重要です。ESD、つまり、持続可能な開発のための教育が必要となってきます。

本年度は、研究主題「主体的に探究する児童の育成～ESD（持続可能な開発のための教育）の推進～」を掲げ、前年度より研究主題を分かりやすいものにしました。

ESDを通して、せたがや探究的な学びの視点で授業改善をし、「主体的、対話的で深い学び」を実現することで持続可能な創り手として、課題を追究したり、課題を解決したりする児童を育成したいと考えたのです。

今年度は、問い見出すために、「教育と探求社」のカードを使ったプログラムを教員が学び、児童に生かしていく取組を行いました。教員が主体的に探究的な学びを行うことで児童も主体的になると考えたのです。様々なアクションを通して、児童は体験を通して学び、生活科・総合的な学習の時間発表会において、他学年や保護者に向けて、発表し質疑応答を行いました。協働することで一人一人の表現力も伸びました。

また、自分たちのアクションを行ったことが、区役所の人たちとの取組になった学年もありました。例えば第2学年で考えた遊具が、野毛町公園の遊具として採用されたのです。第6学年の防犯について、区役所の防犯だよりもにポスターを載せていただきました。

児童アンケートから、この研究を通して、「友達の意見を聞いて考えを広げたり、理解を深めたりすることができますか?」という問いに対して、肯定的な意見が多かったです。教員がファシリテータになり、協働的な学習を意識して取り組んできた、授業改善の結果が表れています。

また、カリキュラムマネジメントを意識してESDカレンダーを作成することで、来年度への生活科・総合的な学習の時間の学習計画の見通しをもたせることができました。

本年度も一年間にわたりご指導・ご助言いただきました。前全国小中学校環境教育研究会 会長 棚橋 乾先生、世田谷区教育委員会事務局教育研究・ICT推進課 教育支援嘱託員 楠美 利文 先生に改めて感謝申し上げます。また、教育と探求社様にもご助言をいただきましたことに感謝申し上げます。

# I 研究の概要

<研究主題>

## 主体的に探究する児童の育成 ～ESD（持続可能な開発のための教育）の推進～

### 1 主題設定の理由

本校は、付近に多摩川や等々力溪谷など豊かな自然が多く、児童が自然を身近に感じることのできる環境に恵まれている。以前より、玉堤小学校の特色ある活動として、地域の方やその自然を保全している方たちと連携して、多摩川や等々力溪谷の植物や生き物を調べる活動を継続して行ってきた。地域の自然を生かした玉堤小学校の教育活動とESDの視点に立った学習指導には共通点も多く、生活科や総合的な学習の時間を通して、繰り返し地域の人・自然・社会と関わりながら問題解決的な学習を行う中で、玉堤小学校が重視する資質や能力を育み、環境や地域社会のために行動することの大切さを学ぶことができると考えた。

「豊かな自然を生かした環境教育」、「せたがや探究的な学び」、「ESDの視点」を通じた授業改善に取り組むことで、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していきたいと考え、主題を「主体的に探究する児童の育成」とした。児童自身が意欲的に探究活動を進めることができるようになり、様々な学びにつながる指導の研究を目指していきたい。

### 2 研究の視点

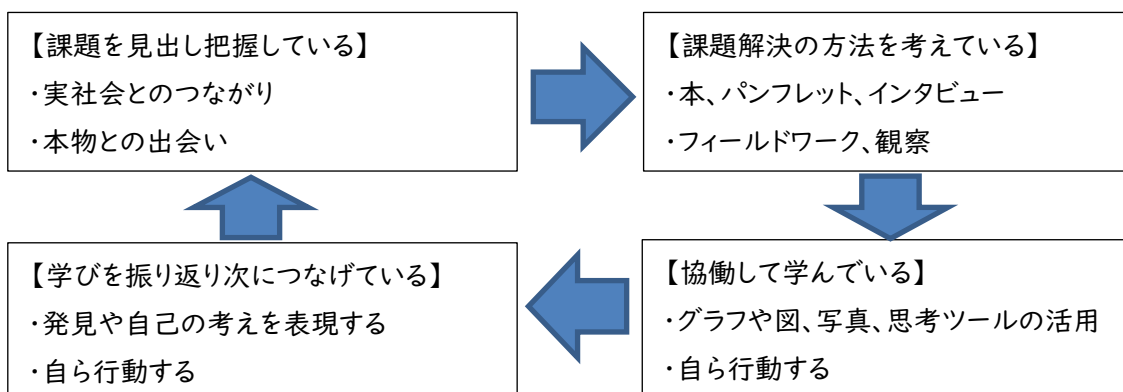
#### <玉堤小学校が重視するESDの視点>

玉堤小学校では、2019年ユネスコ総会で採択された「持続可能な開発のための教育：SDGs実現にむけて（ESD for 2030）」より、育成する資質・能力を以下に設定している。

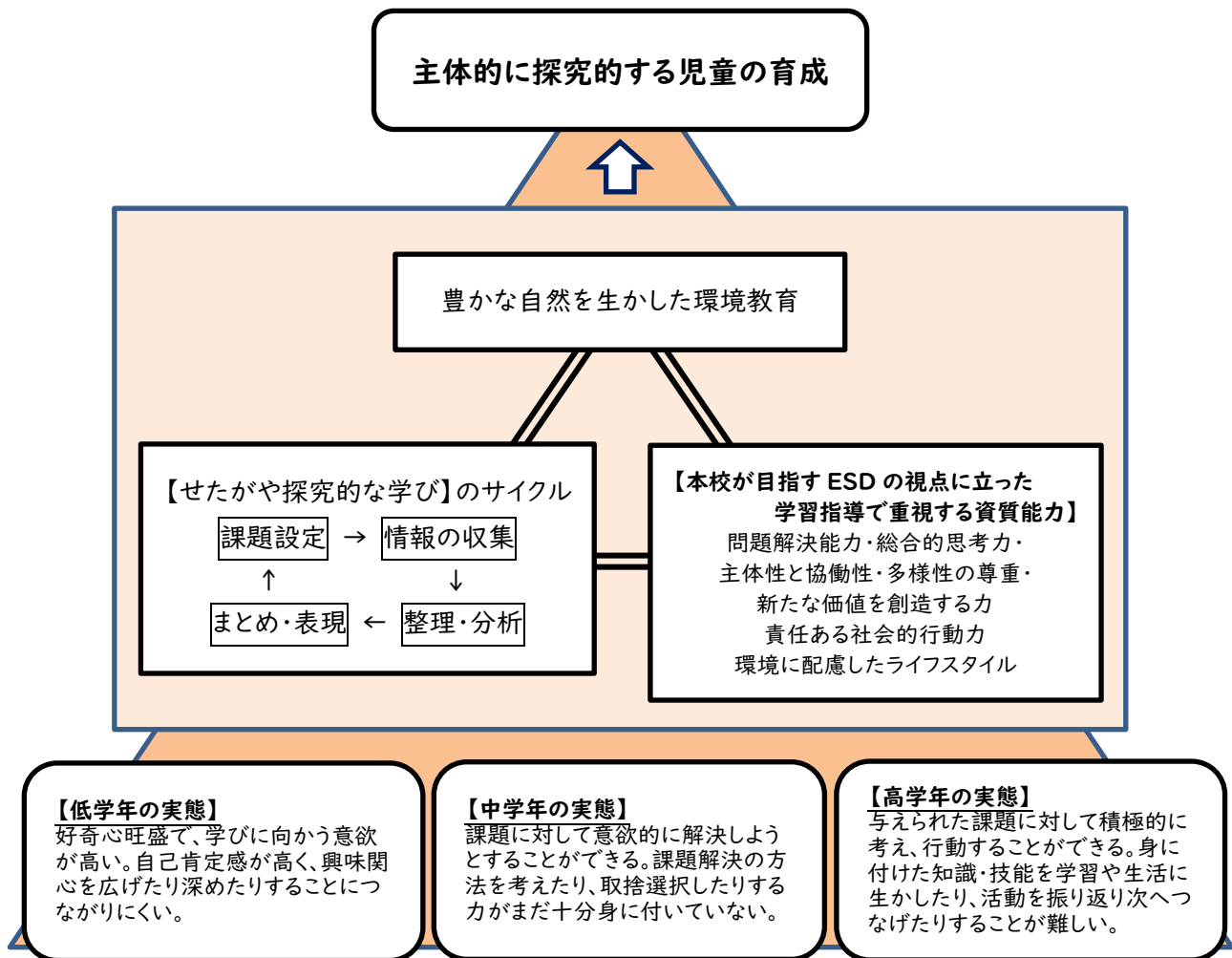
- 【認知】問題解決能力、総合的思考力
- 【社会的情動】主体性と協働性、多様性の尊重、創造性・新たな価値を創造する力
- 【行動】責任ある社会的行動力、環境に配慮したライフスタイル

#### <探究的な学びの視点>

せたがや探究的な学びを通して、ESDの視点で授業改善をし、「主体的、対話的で深い学び」を実現することで、持続可能な社会の創り手として、課題を追究したり、解決したりすることができる主体的な児童の育成をめざすこととした。



## <今年度の研究イメージ>

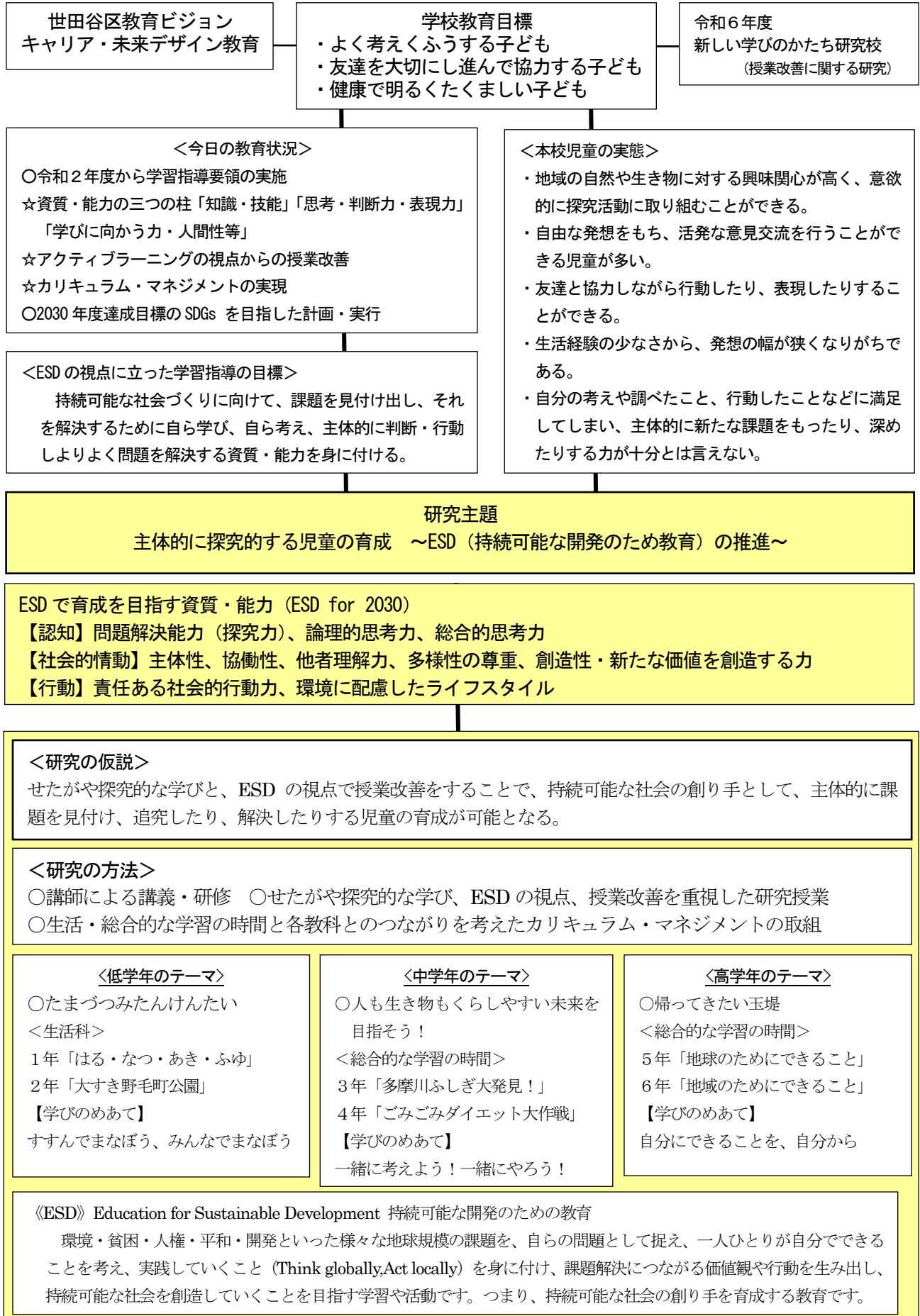


### 3 研究経過

下記の計画に基づき校内研究に取り組んだ。

	校内全体会	内 容	講師の先生
①	4月17日(水)	研究の概要	
②	5月21日(火)	基調講演	
③	5月22日(水)	教材開発・教材研究「Question X 体験会」	教育と探探求社
④	6月25日(水)	研究授業①[5年]	
⑤	7月10日(水)	研究授業②[6年]	
⑥	9月25日(水)	研究授業③[2年]	
⑦	10月16日(水)	研究授業④[3年]	
⑧	11月20日(水)	研究授業⑤[4年]	
⑨	1月22日(水)	研究授業⑥[1年]	
⑩	2月19日(水)	成果と課題 次年度の研究に向けて	

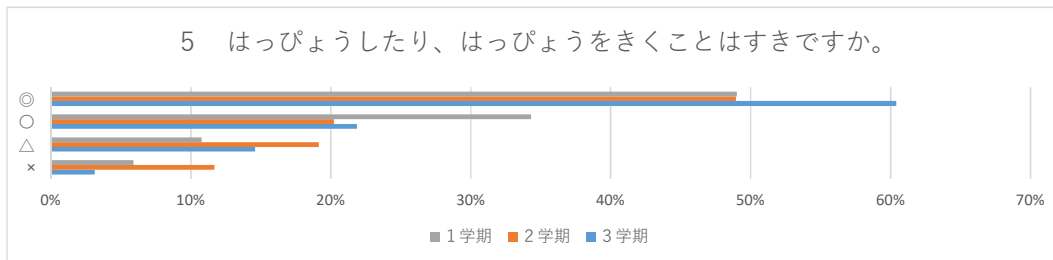
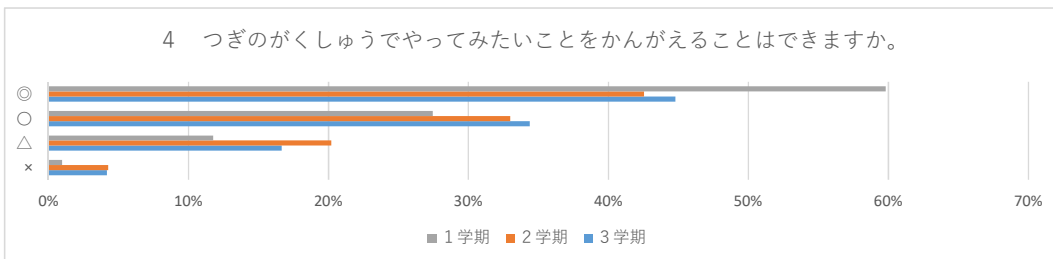
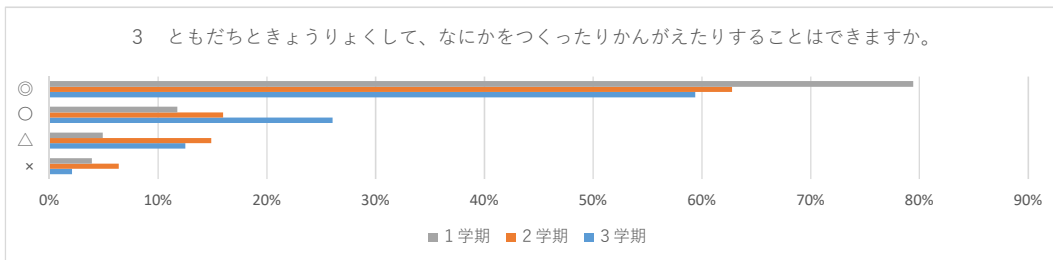
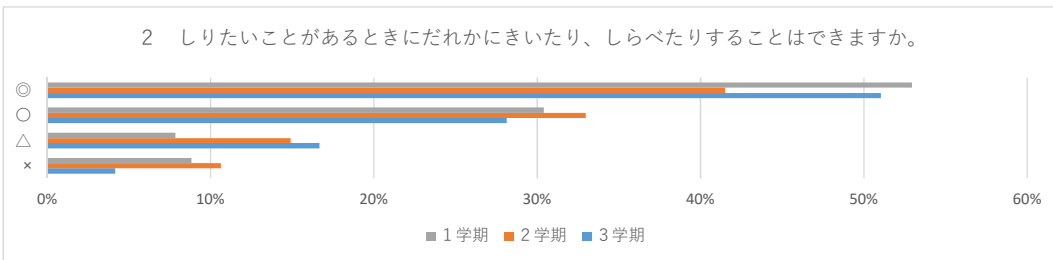
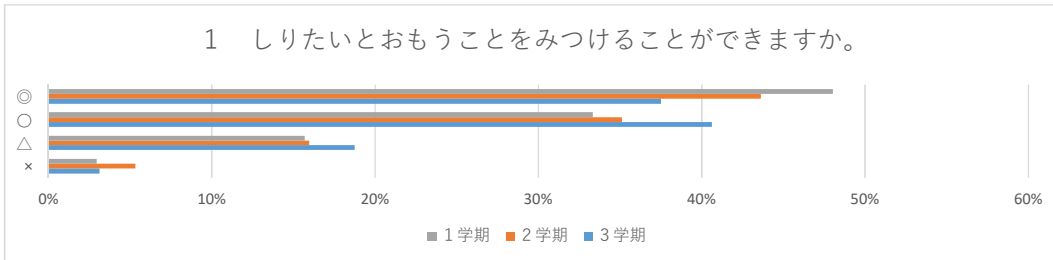
## 4 令和6年度校内研究構想図



## II アンケート

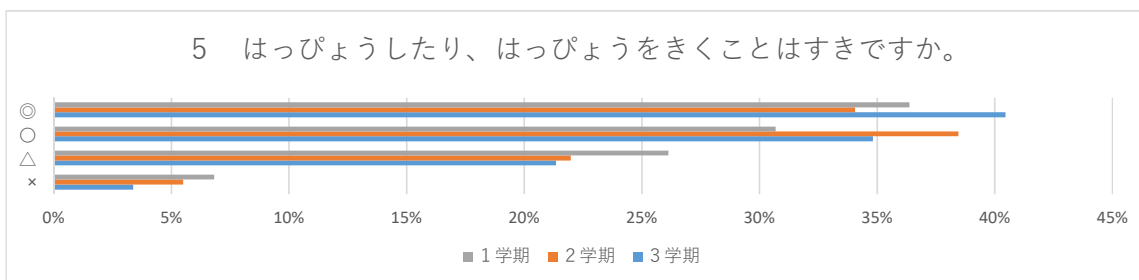
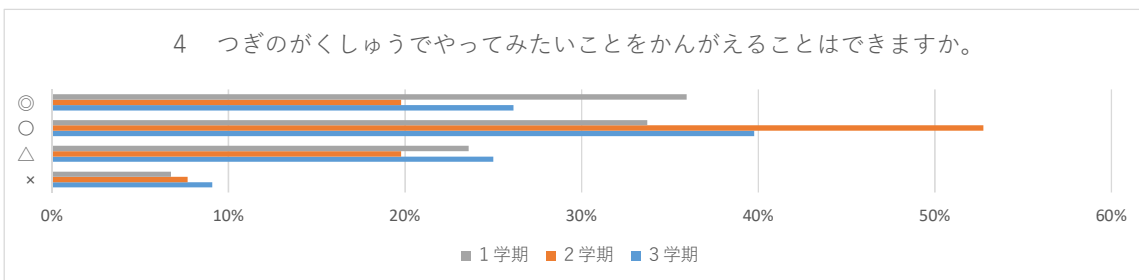
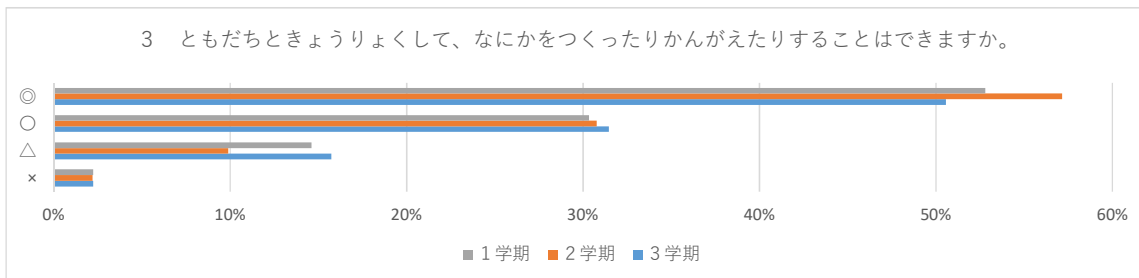
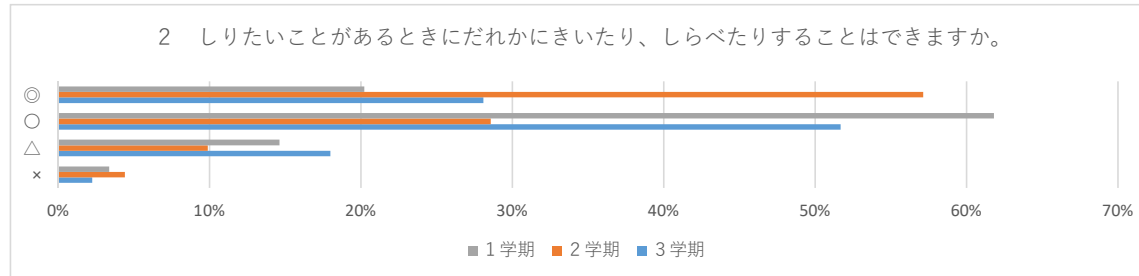
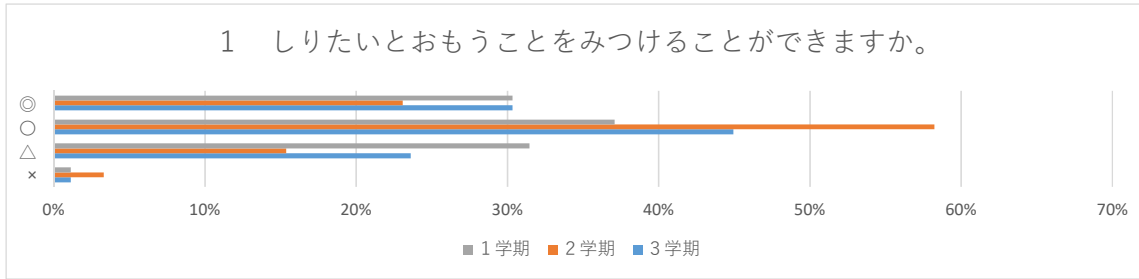
研究を通して、児童の生活科、総合的な学習の時間についての意識の変容、成長を調査するために、1学期と3学期の計2回アンケート調査を行った。1回目と2回目は全く同じ質問項目で調査を実施した。質問項目と調査結果については以下の通りである。

〈1年生〉



全体的に、◎の項目は1学期が一番良い結果となった。要因としては、初めての小学校生活に期待を寄せ、楽しみにしている姿が考えられる。△や×は、2学期が一番多い結果となったが、「たまづつみたんけんたい～きせつを見つけよう～」の学習を中心的に進めた3学期には、減少傾向となった。また、3人グループの学習をし、生活科発表会を実施した3学期は、「5.はっぴょうしたり、はっぴょうをきくことはすきですか」の項目は、1,2学期に比べ大幅に良い結果となった。

〈2年生〉

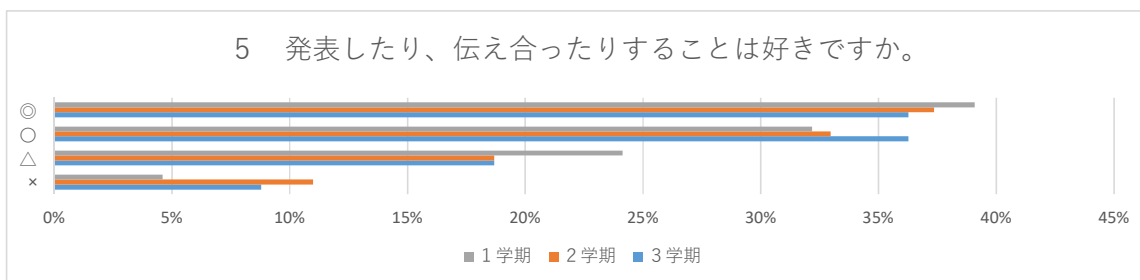
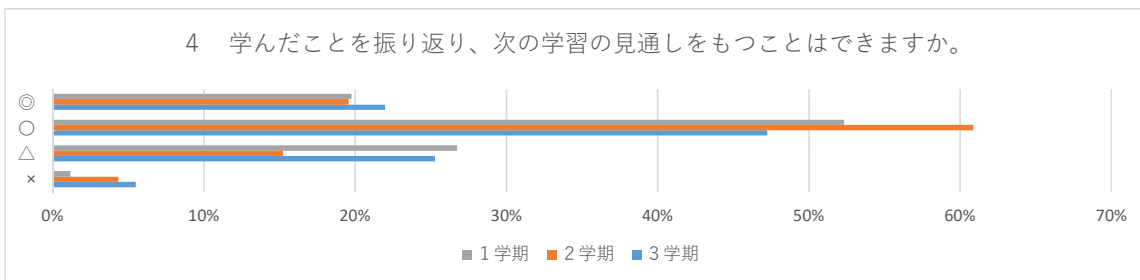
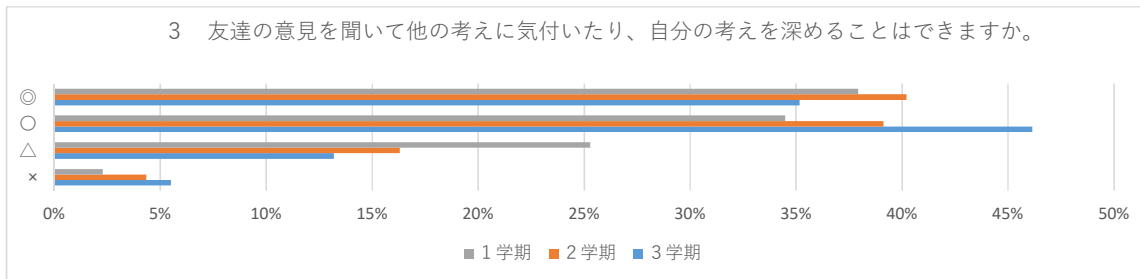
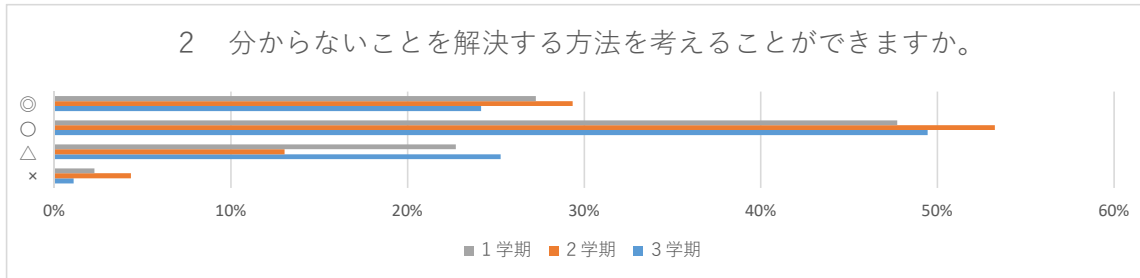
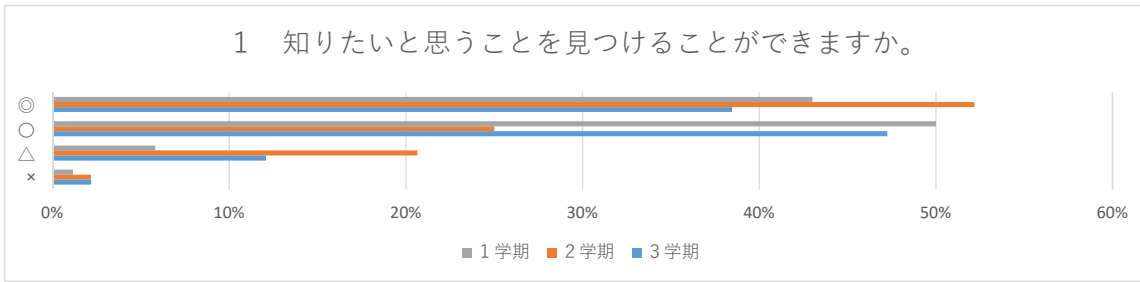


どの項目も1学期よりも2・3学期のほうが良い結果となった。項目1に関しては、公園についての話し合いを2学期に中心に行い、3学期は発表の準備が中心であったため2～3学期の結果が少し悪くなっていると感じる。項目2に関しては、昨年1年生の時と比べると図書館で借りた本で調べたり人に聞いたりする活動が多くなったため数値が良くなったと考えられる。項目3に関しては、グループでの話し合い活動や発表準備に児童が慣れ、自分たちで工夫しようとする姿がたくさん見られた。それに伴い結果が良くなったと考えられる。

その反面項目4に関しては、教師が学習のゴールを設定してしまったため自分たちでやりたいことを考える機会を無くしてしまったため、数値が悪くなった原因だと考えられる。項目5に関しては、発表会を成功させたいというハードルに向けて苦手な児童にとっては苦痛な時間になってしまった。

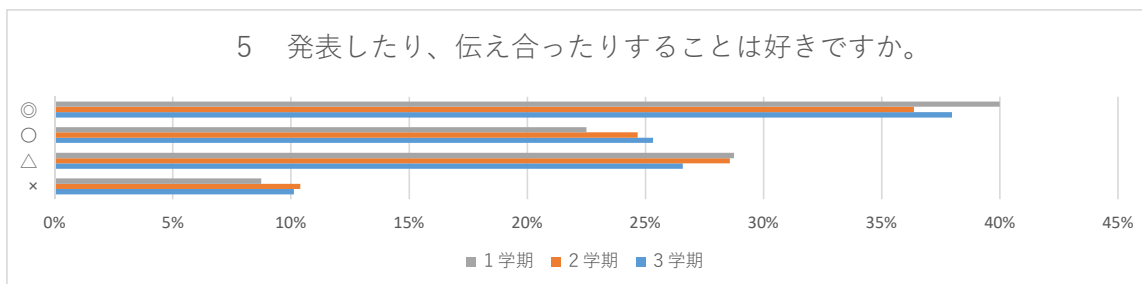
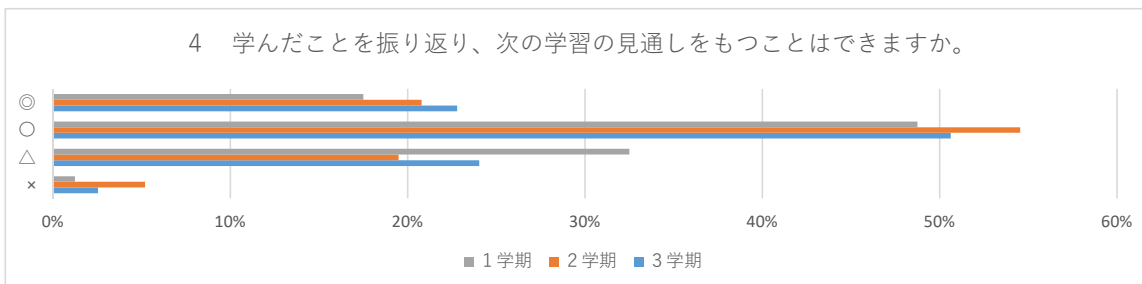
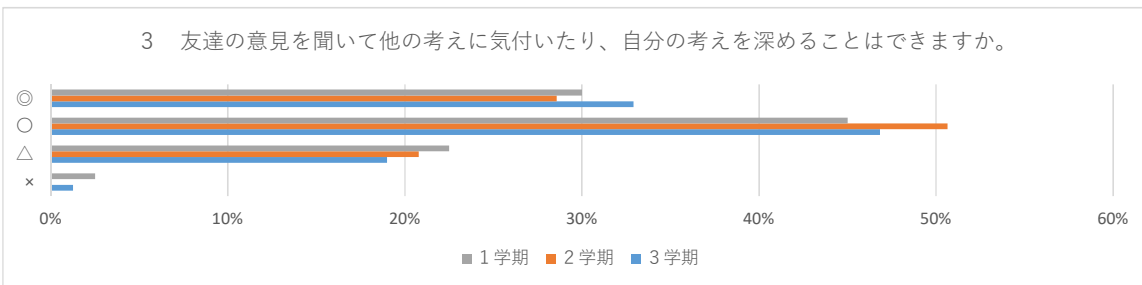
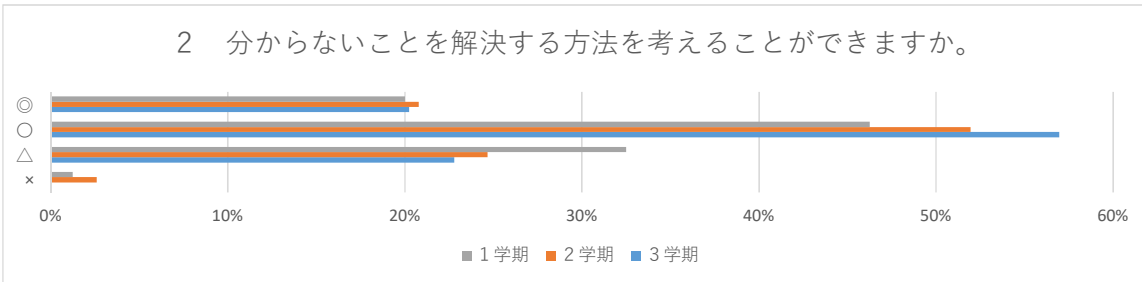
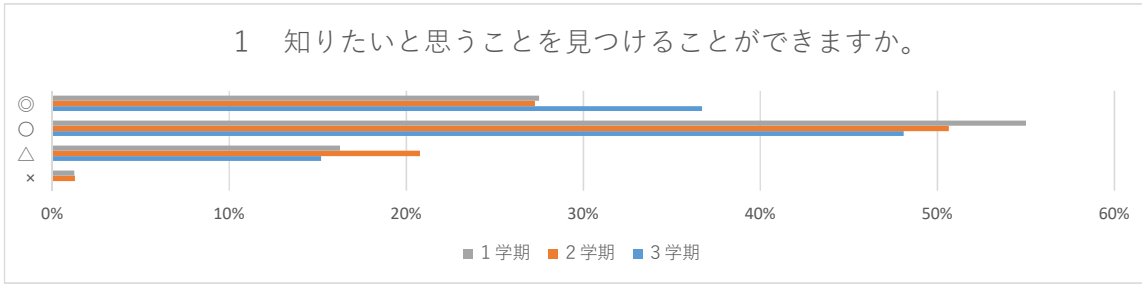


〈3年生〉



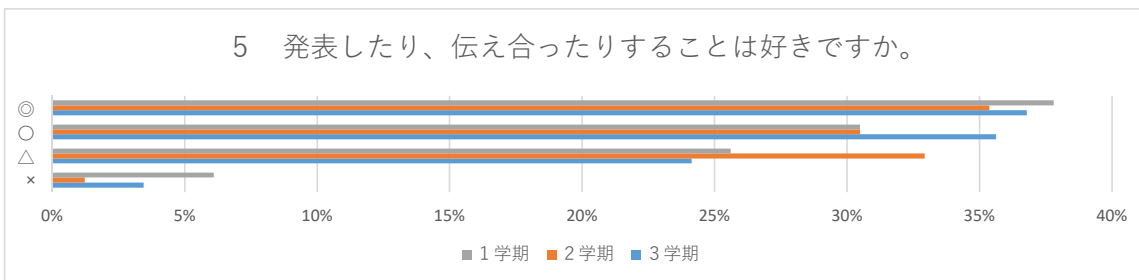
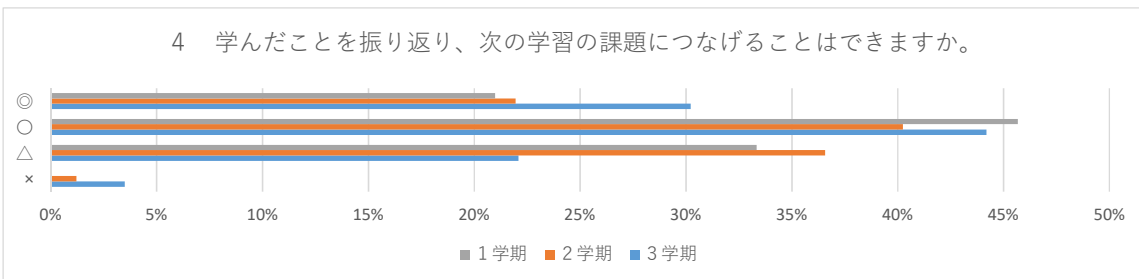
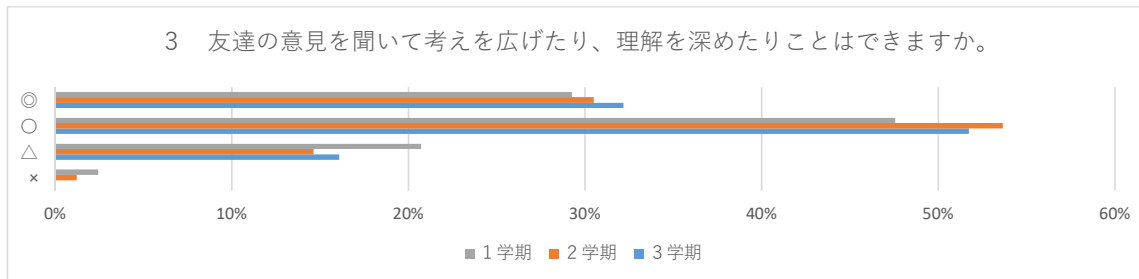
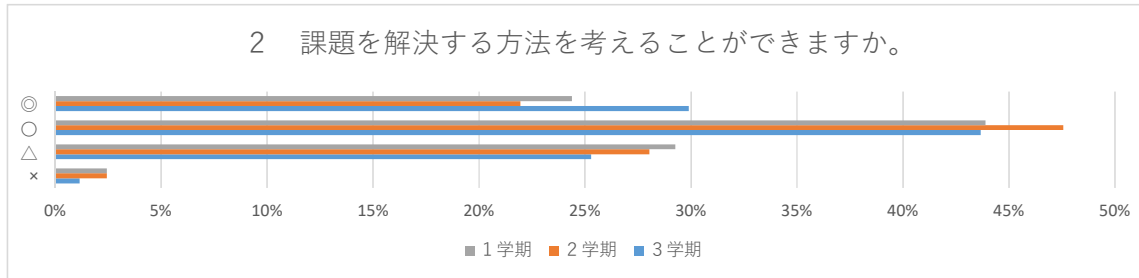
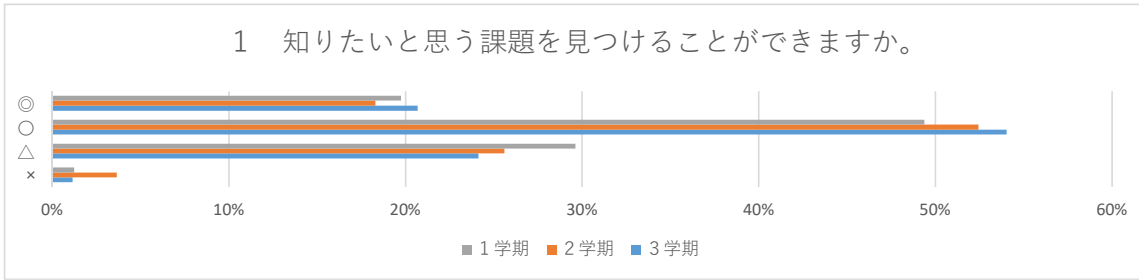
どの項目も70パーセント前後の児童が、すごくできる、できるに回答があった。1学期、2学期、3学期を比較すると、学んだことを振り返り、次の学習の見通しをもつことができるかの質問に対して、できると答えた児童が2学期は61%いたが、3学期は47%に減少。あまりできないと答えた児童は2学期が15%、3学期が25%と上昇している。様々な学んだことを振り返ったり、学習の見通しをもつことに課題が見られた。反面、知りたいことを見つけることや自分の考えを深めることができる児童は、すごくできるを含めて80%を超えており、好奇心旺盛な児童や知りたいことを追求する児童が多くいることが分かる。

〈4年生〉



どの項目も半数以上は「よくできる・とても好き」「できる・好き」という選択肢を選んでいる。子どもたちが各自興味をもって、取り組む意欲が高いと言える。総合の学習でも、すすんで取り組む姿が見られた。質問の「知りたいと思うことを見つけることができる」「友達の意見を聞いて自分の考えを深める」「次の学習の見通しをもつ」は、「よくできる」を選択する子どもが増えた。福祉の学習やごみ問題での学習を通して自信がついたと考えられる。質問「発表したり伝え合う」は、子どもによって得意・不得意が分かれていた。得意な子どももいるが、不得意だと感じている子どもも少なくない。伝え合うことを繰り返し行ったり、練習の時間を活用させたりすることで自信をもたせることも大切だと考えた。

〈5年生〉

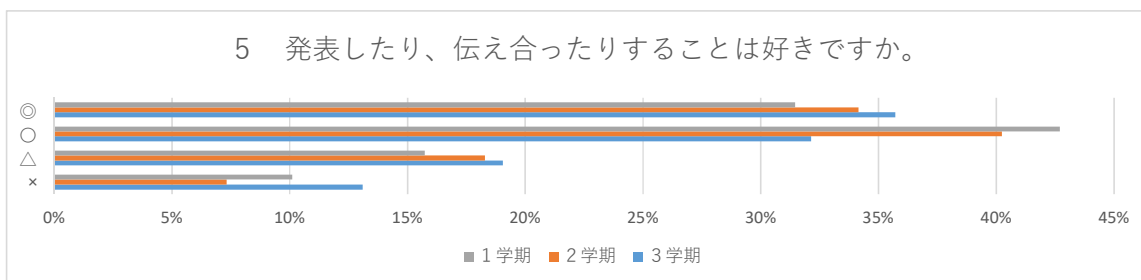
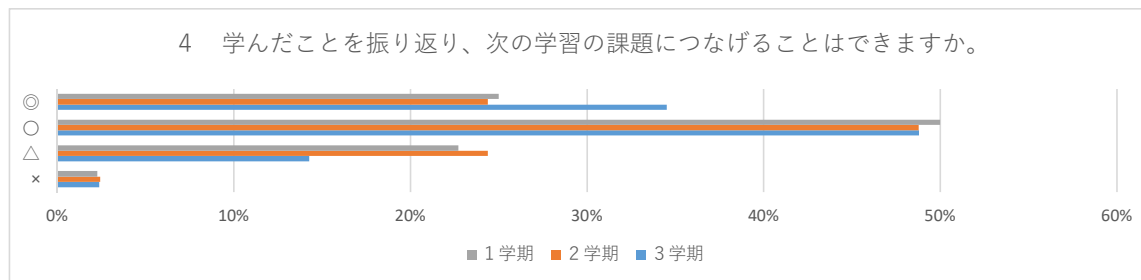
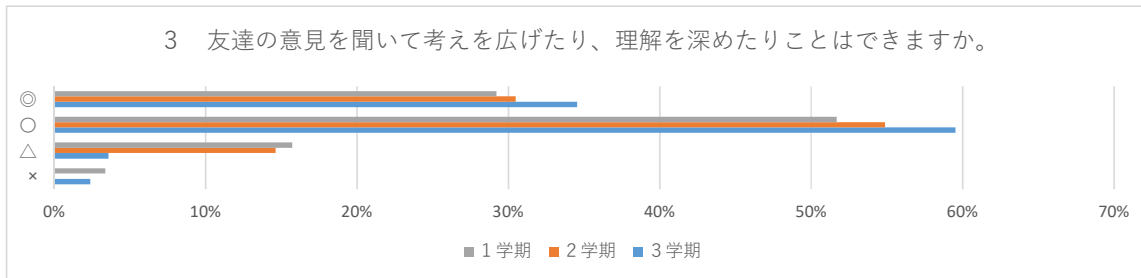
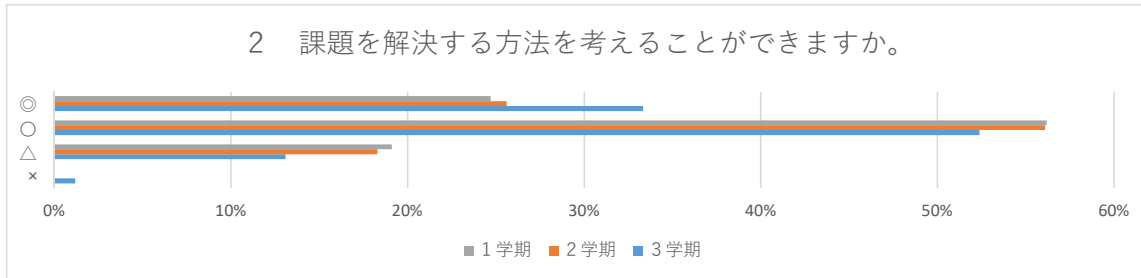
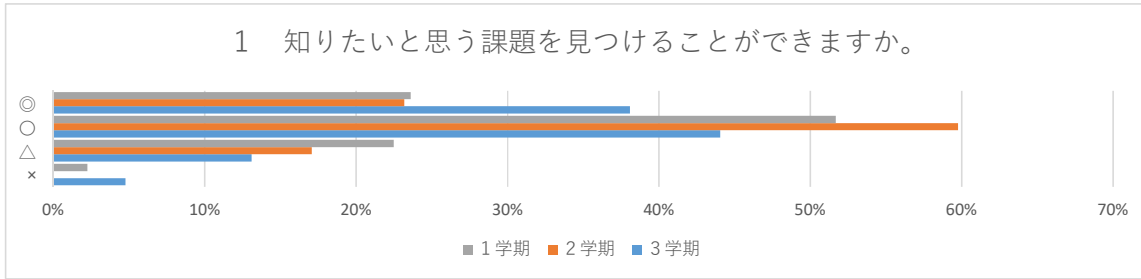


どの項目でも年度当初に比べ、◎（よくできる）・○（できる）と答える児童が増加した。「課題を見付ける力」、「課題を解決する力」の伸びは、今年度、児童主体の活動に重点を置き、教師が児童の思いに寄り添い、柔軟に取り組もうと努めた成果の一つだと考える。

また、1学期と比べ、2学期に下がっていた「学んだことを次につなげる力」や「発表したり、伝えあったりする力」に関しては、3学期に増加した。これは、活動の半ばであった2学期から、活動を終え、振り返りを通じたことで、他の人にも伝えたい、もっとこうした等の思いが生まれた結果であると思われる。また、生活・総合発表会を経て、一定の達成感を得られたことも要因の一つではないかと考える。

一方で、△（あまりできない）・×（できない）と答える児童がどの項目においても2～3割いる。概ね同じ児童であり、教材や手立ての一層の工夫をすることで底上げを図っていく必要がある。

〈6年生〉

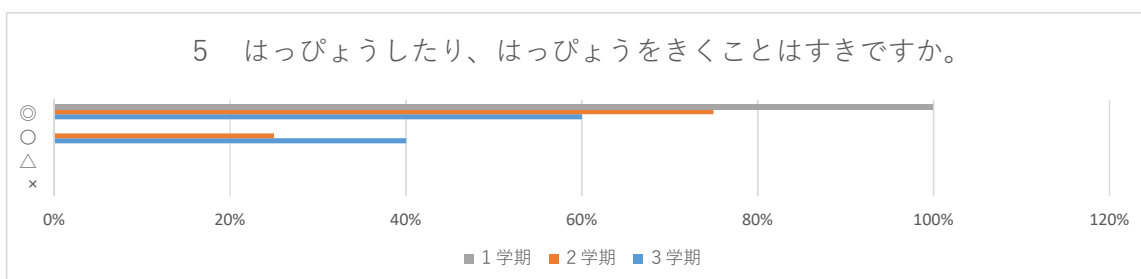
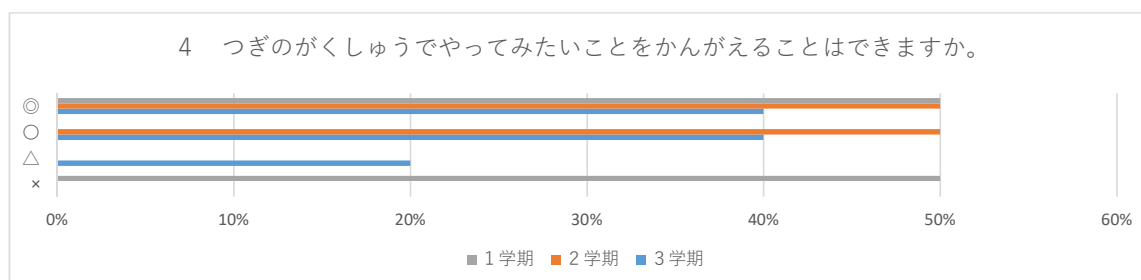
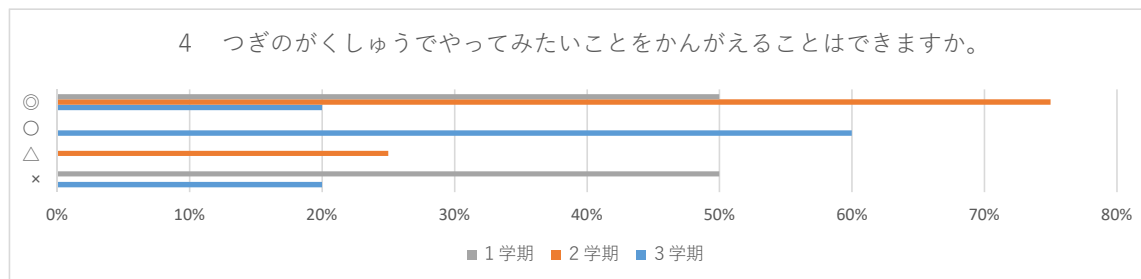
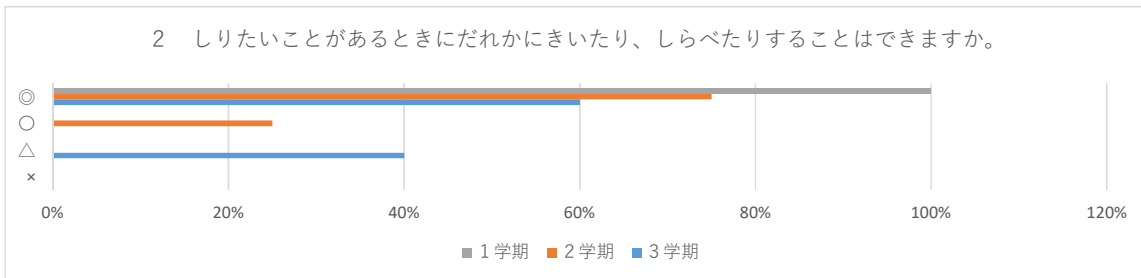
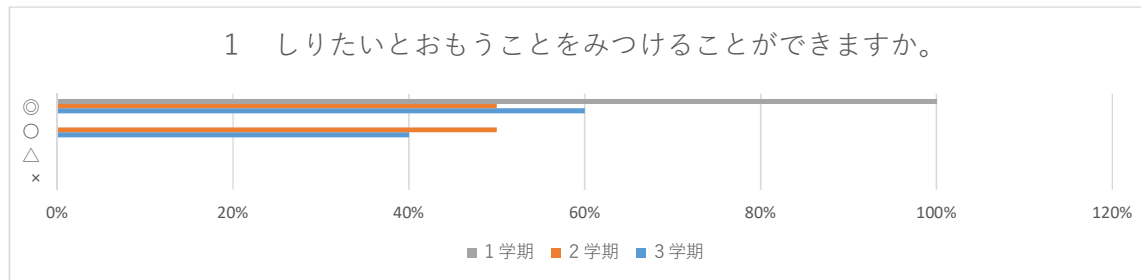


どの項目も、◎（すごくできる、大好き）の結果が伸長した。また、1～4の項目については、△（あまりできない、あまり好きではない）×（できない、きらい）の結果が減少している。このことから、今年度の授業を通して探究的な学びに意欲的に取り組むことができる児童が増えたと考えられる。しかし、「5 発表したり、伝え合ったりすることは好きですか。」の項目については、○が10%近く減少し、△と×が増加している。このことより、発表が好きだった児童が苦手になっていったと読み取ることができる。

以上の結果より、年間を通しての学習の流れはおおむねよいと考えられる。

課題としては、発表することが苦手になってしまう児童が多くいたことである。発表することが外発的動機となっており、意欲的に成れないのが一つの要因ではないかと考える。内発的動機とするための工夫が何か必要だった。3学期の発表は、成果の発表となってしまった。過去を振り返り発表するのではなく、「課題の今後への展望」など未来を見通した発表にすると違ったかもしれない。来年度は意欲を高める工夫を意識した学習計画をおこなう必要がある。

## 〈かわせみ〉



かわせみ1・2年 後からかわせみ4・5年入力

1. 体験したことを元に、もっと色々なことに興味がわく傾向が強いことが分かった。切り替えが難しくなるくらい、のめりこむ姿がしばしば見られた。
2. 分からないことを日常の中で教員が丁寧に寄り添いながら答えてあげたり、タブレット端末を活用した調べ学習の楽しさを味わったりすることができている。
3. 友達と協力して考える力について、総合的な学習の時間で取り組んだ「ピクトグラム」や「都道府県調べ」において、自分自身の経験や興味から出発して意見を出し合うことができた。
4. 課題設定する力についても3.と同様である。
5. 朝の会のスピーチや行事後の感想発表で自分自身の身の回りで起きた出来事や、自分の気持ちを一生懸命聞きあったり、価値づけし合ったりする時間を学級で大切にできたことで、自己有用感が育った。

＜研究主題＞

主体的に探究する児童の育成  
～ESD（持続可能な開発のための教育）の推進～

## 第1学年 生活科 学習指導案

令和7年1月22日（水）5校時

1年2組34名

### 1 単元名 たまづつみたんけんたい ～きせつを見つけよう～

#### 2 単元について

##### (1) 単元の捉え方

本単元では、1年生の生活科では、季節の変化と生活についての学習がある。春・夏・秋・冬という四季について、自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見つけることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとしている。夏を見つける活動の中で、自然の様子を五感で捉えたり、春の様子と比較したりすることができ、夏らしさに気付くことができた。たとえば、植物や生き物、気温、風などの自然の様子である。春は4月に校庭の桜の木に花が咲いていたが、5月には花が散り、青葉になって夏に変化していく様子が話題に上がった。花びらが風で舞っているのを見て、花びらをキャッチする姿が見られた。春の様子と比べるために、季節について考えていくときは、比較して変化を捉えるようにした。桜の写真を掲示したり、学校の中を探検したりしたときの写真をもとに、春らしいものを発見したことを思い出した。また、秋は、多摩川台公園の遠足に行ったとき、どんぐりやまつぼっくりがあり、これらを使っておもちゃ作りをしたいと子どもたちから話があった。秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりすることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びのおもしろさ、自然の不思議さに気付くとともに、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しみながら遊びをつくり出したりすることができる。

日々季節のことで感じていることを、言葉にして共有していくことで実感することができるため、自然に関心を持ち、季節の変化を感じられる子どもたちになってほしいと考えた。

本単元では、季節の変化を通して、生活が変わることに気付くために、季節を比較してその季節らしい遊びとは何かを考えて、季節にあった遊びを見つける態度を養いたい。

##### (2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

季節の変化を実感し、季節ごとのよさに気付き、その季節に合った遊びを考えられる児童を育てるには、まず、一人ひとりが植物や生き物、気温、風などのその季節の自然の様子に気付くことが大切である。そして、日々の生活の中で季節ごとの特徴を感じて、教師や友達に気付いたことを話す。話すことや聞くことを通して、季節についてさらに理解を深めることを繰り返すで、「せたがや探究的な学び」につながると考える。そして、季節について気付いたことを個々で発表する、全体で共有する、グループごとに季節の特徴をまとめる、季節に合った遊びを考えるというスパイラルを通して、「せたがや探究的な学び」を実践していく。

グループごとに、季節について気付いたことを出し合い、季節の特徴をさらに理解していく。前の季節や後の季節と比較することで変化に気付けるので、同心円を4つに分けたシンキングツール(1つの円を4つに分ける)を活用して情報を整理していく。また、季節のことで気付いたことと遊びについて分けて考えていくことで、季節に合った遊びに着目させて考える。そして、実際に、遊ぶ活動を通して、季節のよさを実感できるようになってくる。

この探求的な学びを通して、季節の変化を実感し、遊びを通して季節のよさに気付かせていくために、日々の生活の中で季節について興味・関心をもって行動していける児童を育てていきたい。

### (3) 主題に迫るための手立て

○「指導計画の工夫」

- ・季節について気付いたことを個々で発表する、全体で共有する、グループごとに季節の特徴をまとめる、季節に合った遊びを考える

○分類シートの活用

- ・季節ごとに分けて配布し、季節の特徴と季節に関する遊びや活動を分類する。

○振り返りカードの活用

- ・気付いたことを振り返るとともに、比較することを通して、考えていく

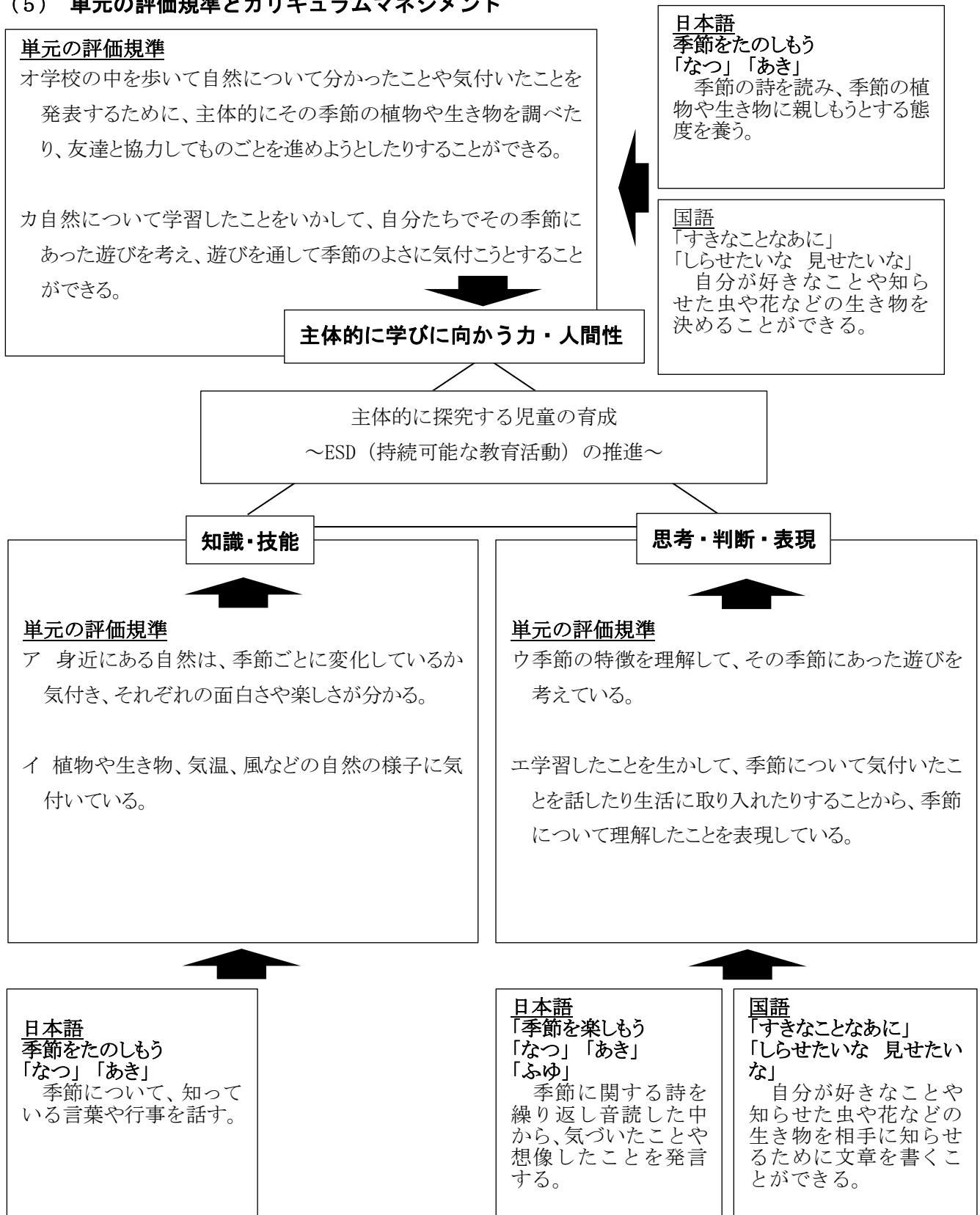
○2年間を通した単元設定

- ・1年生で学んだことを2年生の学習で活かせる単元を設定

### (4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
責任ある社会的行動力	・学校の中を歩いて自然について分かったことや気付いたことを発表するために、主体的にその季節の植物や生き物を調べたり、友達と協力してものごとを進めようとしたりすることができる。
問題解決能力	・自然について学習したことをいかして、自分たちでその季節にあった遊びを考え、遊びを通して季節のよさに気付こうとすることができる。

(5) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント





### 3 児童の実態

本学級の児童は、意欲的な児童が多く、楽しく授業に取り組む様子である。楽しく取り組む一方で、最後まで話を聞くことができず、思ったことをすぐに口にしてしまうことがある。また、ペアやグループの活動に慣れておらず、話し合いを思うように進めることができていない。本単元の学習を通して、話を聞くことの大切さに気づき、協働的な学びを進めるきっかけづくりをしていきたい。

### 4 単元の目標

冬らしい自然の様子や冬ならではの遊びの楽しさを実感することで、これからも積極的に自然と触れ合って遊んだり、身近な自然を取り入れ、自分の生活を楽しくしたりしようとするができるようになる。

### 5 単元の指導計画 37時間

	ねらい	探求のプロセス○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
					知	思	主	方法
なつをみつけよう(7)	春の様子と比較し、夏の探検でどんなものが見つかるのか、期待を高めるとともに、学習の見通しをもつ。	見つける③  考える①	○今まで自分たちが知っていることや学校で見つけた春の様子と今を比べ、教室内で予想してみる。 ○実際に校庭など見に行き夏だと思えるものを探してみる。 ○探してきたものを全体で共有する。 ○共有した項目を気温、生き物、草花、遊びなどに分類して整理する。	日本語「季節を楽しもうなつ」	ア  イ		カ	観察 発言 発表 ワークシート タブレット
みずであそぼう(3)	幼児期の経験を想起し、どんな水遊びができるか考え、意欲を高めるとともに、夏に興味をもつ。	考える②  いっしょに①	○夏に適した遊びを考える。  ○学年で一緒に夏の遊びを楽しむ。	国語「すきなことなあに」「しらせたいな見せたいな」  体育「水遊び」		ウ	カ	発言
きせつをふりかえろう(1)	今までに見付けた気づいたことを振り返り、感じたことや考えたことを伝え合うことで、次の季節に興味をもつ。	つなげる①	○これまでの活動を振り返り、次はどんな季節の特徴があるのか興味をもつ。	国語「すきなことなあに」「しらせたいな見せたいな」		エ		発言

	ねらい	探求のプロセス○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
					知	思	主	方法
あきをみつけよう(5)	秋を見つける活動の中で、自然の様子を五感で捉えたり、夏の様子と比較したりすることができ、秋らしさに気づく。	見つける④  考える①	○今まで知っている秋のイメージや学校で見つけた夏の様子と今の様子を比べ、教室内で秋を予想してみる。 ○実際に校庭など見に行き、夏のと看に見たものや感じたことと違うと思うものを探してみる。 ○探してきたものを全体で共有する。 ○共有した項目を気温、生き物、草花、遊びなどに分類して整理する。 ○2年生と一緒に遠足に行く。 ○玉川台公園で秋の木の実や落ち葉を拾う。	日本語「季節を楽しもうあき」  国語「すきなことなかに」「しらせたいな見せたいな」	イ	ウ	オ	観察 発言
おちばや木のみでつくろう(6)	前時からの思いや願を受け、秋の自然物の特徴を生かして、どんな遊びをしたいか、どんなものを作りたいか、考える。	考える②  つくる④	○玉川台公園で拾った秋の素材を使って、自分で考えた設計図を元におもちゃを作る。 ○本や資料を参考に新たなおもちゃを作る。	日本語「季節を楽しもうあき」		ウ	カ	観察 発言  ワークシート
つくったおもちゃであそぼう(4)	前時の活動で工夫しておもちゃを作っていることとおもちゃへの高い思い入れをもって工夫して遊ぶ見通しをもつ。	いっしょに④	○自分で作ったおもちゃで遊んでみる。 ○友達の作ったおもちゃで遊んでみる。 ○本や資料を読んで工夫を加えたおもちゃで遊んでみる。				カ カ カ	
きせつをふりかえろう(1)	今までに見つけたり気づいたりしたことを振り返り、感じたことや考えたことを伝え合うことで、次の季節に興味をもつ。	つなげる①	○これまでの活動を振り返り、次はどんな季節の特徴があるのか興味をもつ。	日本語「季節を楽しむあふなきゆ」		エ		

	ねらい	探求のプロセス○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
					知	思	主	方法
ふゆをみつけよう(4)	冬を見つける活動の中で、自然の様子を五感で捉えたり、夏や秋の様子と比較したりすることができ、冬らしさに気づく。	見つける③(本時)  考える①	○今まで知っているふゆのイメージや学校で見つけた秋の様子と今の様子を比べ、教室内で冬を予想してみる。 ○実際に校庭など見に行き、秋のときに見たものや感じたことと違うと思うものを探してみる。	日本語「たしなみ」 季節のしものなつき」	ア  イ	ウ	カ	観察 発言
ふゆのあそびをしよう(5)	風で遊ぶ活動や、冬ならではの遊びだけでなく、昔から日本に残る遊びを通して、ルールを考えたり自然をいかしたりしてあそぶ。	いっしょに⑤	○凧あげ、昔遊びなど、地域のお年寄りや保護者の方に教えていただきながら、それらの遊びに興味をもち、楽しむ。	日本語「たしなみ」 季節のしものなつき」	イ		オ	
きせつをふりかえろう(1)	1年を通して見つけたことや気づいたことを振り返り、感じたことや考えたことを伝え合うことで、冬が春につながっていることに気づいたり、自分でも気付いていなかった気持ちや成長を実感する。	つなげる①	○これまでの活動を振り返り、次はどんな季節の特徴があるのか興味をもつ。 ○季節はまた同じように巡ってくることに気づき、次の季節を楽しみにする。			エ  エ		発言 発表 ワークシート



## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

冬を見つける活動の中で、自然の様子を五感で捉えたり、夏や秋の様子と比較したりすることができ、冬らしさに気づくことができる。

### (2) 本時の展開 (30/37時間)

児童の活動	◆評価規準 ( ) 評価の方法 ○留意点
1. 前時の学習と本時のめあてを確認する。	○学校での冬探しを振り返らせ、本時のめあてを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           ふゆのきせつについてまとめよう。         </div>	
2. 夏、秋と同様のまとめ方を確認する。	○今までまとめてきた季節と遊びのまとめシートの書き方、グループでの話し合いの仕方を確認する。
3. グループで冬について話し合い、付箋をまとめシートに貼る。(はなしあい①)	○付箋を書く記録係、付箋などを取りに行く郵便係、話し合いの進行を進める司会係を決めておき、スムーズに話し合いができるようにする。
4. グループで、冬に学校でやる遊びについて話し合い、付箋をまとめシートに貼る。(はなしあい②)	
5. できあがった季節と遊びのまとめシートより、グループで出た意見を全体共有する。(はっぴょう)	
6. 発表内容を基に、まとめシートの仕上げを行う。(しあげ)	
7. 今回の活動について振り返る。(ふりかえり)	○振り返りシートを記入する。 ◆冬についてまとめることで、冬らしさに気付いている。【 思考・判断・表現】(観察、カード)

### (3) 板書計画

玉づつみたんけんたい ～きせつを見つけよう～	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           ふゆのきせつについてまとめよう。         </div>	発表で出た意見を板書する。
① はなしあい① 7ふん	
② はなしあい② 7ふん	
③ はっぴょう	
④ しあげ 11ふん	
⑤ ふりかえり 10ふん	

## 7 参観の視点

- (1) 季節と遊びのまとめシートは、季節と遊びについてまとめることに有効だったか。
- (2) 授業改善の視点で「自分なら」「ここはこうの方がいい」等の意見をお願いします。

## **(1) 研究協議**

### **① 学年より**

- ・校庭や多摩川など周りの自然について、周りの人に伝えて行けたらいいよね
- ・夏からスタートして、2年生になる前に春について行う
- ・事前授業が活かされた（言葉の拾い方、つなげ方、掘り上げ方など）
- ・なるべく近くで話せるように、話し合いの形を考えた
- ・シートの工夫（季節ずつ）

### **② 授業者自評**

- ・事前に比べたらよい授業になった
- ・話し合い→2回を1回に
- ・年間を通して、冬が一番よい内容になった

### **③ グループ協議より**

#### A グループ

- ① 循環がわかりやすい、自由なところがあったので、観点をまとめやすく  
観点については、何を出して欲しいのか  
何が目的でゴールだったのか  
同心円にする意味は・・・？
- ② まとめる→意図が分かりにくいので、具体的に  
観点を季節で比べられるように、おさらいしてもよいのではないか  
写真で比べてもよかった  
他の班や隣の班と共有する仕組みがあってもよかった

#### B グループ

- ① これまでの季節と比べられていてよかった  
項目の共通理解ができていないグループもあった
- ① しあげの時間を増やしてあげるとよい  
追加する時間と分類分けする時間を分けてあげるとよかった

#### ? 繰り返りの視点について

→冬の遊びについて (B) 関連付けができて (A)

活動内容については、丸をつける

冬について書いてほしい

#### ? 「楽しく活動」を聞く意図

→毎時間全部聞けないので、楽しかったかどうか聞いた

◎役割分担が素晴らしかった

#### C グループ

- ① 「次は春が来る」の児童の発言がよかった  
食べ物・植物のカテゴリ名で他の季節と比較できるように  
風が出てくるとよかった  
出てきて欲しいもの→経験させておくとよい

#### D グループ

- ① 紙の良さが活かされていた（わくわく感）

役割が決められていてよかった

3人組の構成がよかった

ICTでの導入→紙◎

② ふり返りを書くときの声かけ（秋のときのものを例示）

## **（２）指導講評**      **【講師：棚橋 乾 先生】**

- ・全体的によかった
  - ・1年生が自分の考えを文字で書けるだけでもすごい！
  - ・引っかけた部分…雪！雪が降っている場所の子からしたら身近だけど、世田谷の子はそうではない（グラフ提示）
  - ・森林火災など実際に起こっている
  - ・昔経験したかもしれないけど、雪遊びしたりソリしたりすることがあまりできていない
  - ・今日の授業の一定数はイメージ△
  - ・自分が実感したものとは違う
  - ・実体験を伴った発想がもう一步欲しかった
  - ・季節感の変化（長い夏と少しの春秋、あたたかい冬）
  - ・季節のイメージよりも、実体験の中から季節を感じられるようにすることが大切
  - ・実体験→身近な自然を知る
  - ・自分たちの足で調べたことで、授業を作り上げて行ってほしい
  - ・ふり返りの時間→1年生がサッと取り組める
- 自己理解の深い児童になっていくのではないかと、期待！

（児童が主体的に取り組むための手立て）

A 予想にこだわらせる／意味／競争心／自分で決める

B 興味もてる資料準備／やってみたいこと→最初からノーと言わない・こうしたら？  
やってみてもいいんだと思わせること

C 資料選び／子どものやりたいで選択させる／予想させる／実生活につながること

D やりたいことをまずさせてみる／自分達でやっていると思わせる／時間と場所の確保

- ・我々は職人！技を披露しあって、高めていく→校内研
- ・こどもたちの問題解決能力を高めていける授業を目指してほしい

## **（３）成果と課題**

### **〈成果〉**

- ・3人グループを組むことで、話し合いをスムーズに行うことができた。司会、記録、郵便の役割を与えることで主体的に取り組めるようになった。
- ・季節についてまとめることで、身近な自然の変化に気づき、興味をもつ児童が育ってきた。

### **〈課題〉**

- ・児童の頭の中にあるイメージで話が進んでいたため、自然と触れ合うなどの実体験ができる機会をたくさん設け、実体験の中から季節を感じられるようにすることが大切であることが分かった。

<研究主題>

主体的に探究する児童の育成  
～ESD（持続可能な開発のための教育）の推進～

## 第2学年 生活科 学習指導案

令和6年9月25日（水）5校時

2年3組30名

### 1 単元名 たまづつみたんけんたい ～大すき野毛町公園～

#### 2 単元について

##### (1) 単元の捉え方

本単元は、地域と関わる活動を通して、地域の人や場所、公共施設の存在について考え、地域での生活はさまざまな人や場所、公共施設を支えている人と関わっていることに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身につけ、地域に親しみをもって生活したり、公共施設を正しく利用したりすることができるようにすることが目標である。また、低学年の段階で自分自身を取り巻く環境に関心を持ち、意欲的に関わることで、環境に対する豊かな感受性を育てたいと考える。

本単元で主に活動する玉川野毛町公園は豊かな自然とともに様々な施設も充実しており、地域住民の意見を取り入れつつ敷地の拡張工事が進められている。昨年度の2年生も玉川野毛町公園に探検に行っており、2年続けての活動となる。今年度は世田谷区の公園緑地課の方と新設する遊具の希望アンケートを行うなど連携した学習をしていく。近隣に住む児童たちが野毛町公園に興味関心を持ち、親しみをもつ中で、地域の方々の願いに触れ、自分たちのまちのよさに気付くようにさせたい。

##### (2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

自分たちが住む地域にある公園に新しい遊具ができる。そして、その遊具をどのようなものにしたいかという自分たちの意見を区に届ける。その目的のもと、現段階ではどのような課題があるかを2年生なりの視点で考えさせたい。そして、探求のプロセス（課題把握・課題解決・協働・振り返り）を繰り返しながら自分たちの身近な自然や人に興味を持ち、児童自らが主体的に興味関心を広げていくことができる。また、今回は個人での活動からグループでの活動、そして学年全体での協議を行っていく予定であり、その活動の中で多様な考え方や捉え方を知り、互いのよさを認め合い尊重し合うことにも繋がると考える。

### (3) 主題に迫るための手立て

○学習形態の工夫

- ・個人での活動からグループでの活動、そして学年全体での協議を行っていく活動の中で多様な考え方や捉え方を知り、互いのよさを認め合い尊重し合えるようにする。

○2年間を通した単元設定

- ・学年ごとの取り組みのつながりや2年間で身に付けさせたい力を考えた単元

○地域・保護者・企業との連携

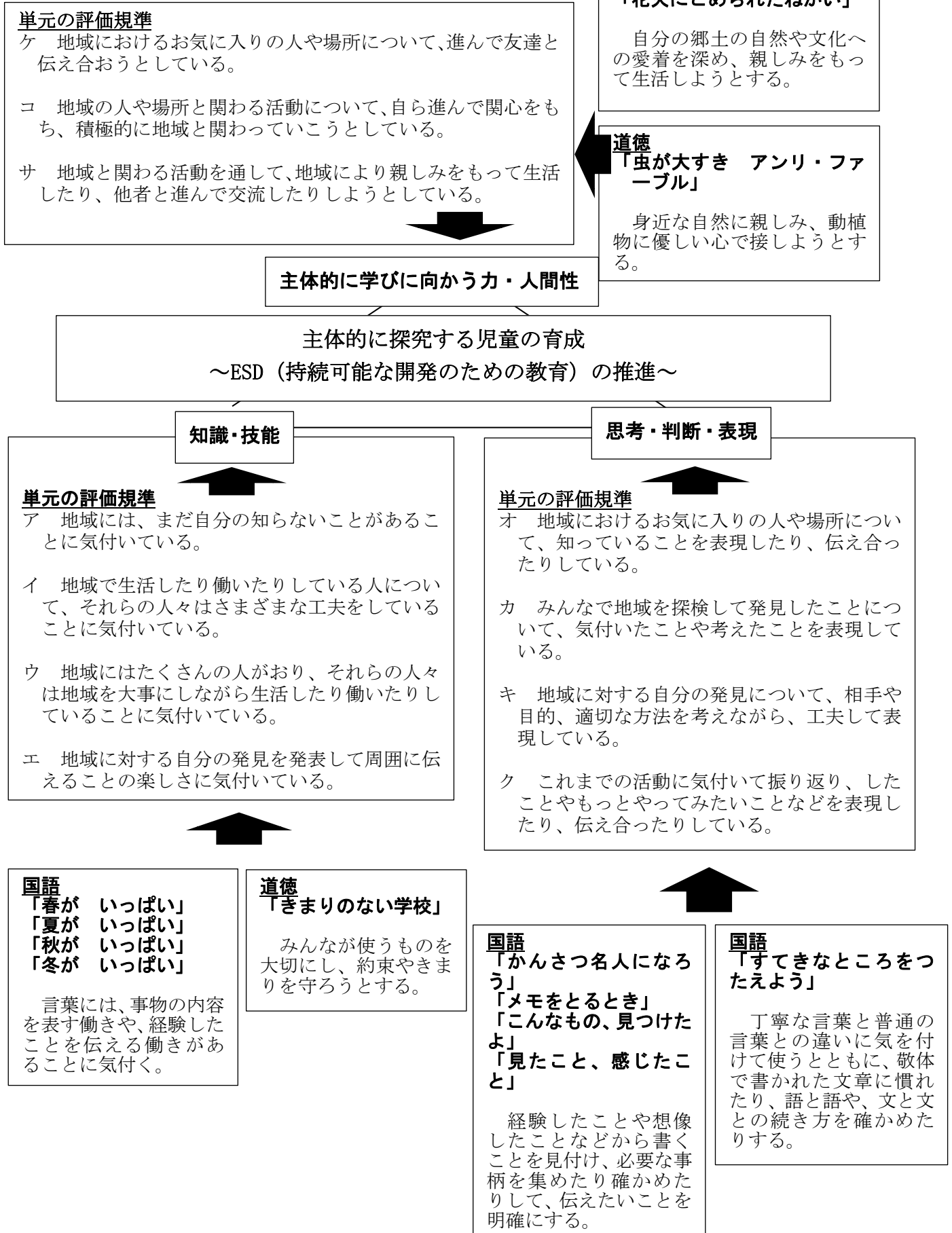
- ・世田谷区公園緑地課
- ・近隣の公共施設
- ・地域の方、保護者

### (4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
責任ある社会的行動力	・自分たちが求める遊具の設置を実現させるために、それをどのように発表か主体的に話し合いに参加したり、友達と協力してものごとを進めようとしたりすることができる。
問題解決能力	・公園を利用する人の立場に立ち、その人たちが喜ぶ遊具は何かを考えることができる。



(5) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント



### 3 児童の実態

本学級の児童は自由な発想力をもち、話し合い活動でも活発な意見交流を行うことができる児童が多い。しかし、周りの意見を聞き入れたり意見の折り合いをつけたりすることが難しいところがある。本単元を通して、友達と意見交流を楽しみ、すすんで考えたり意見をまとめたりしようとする意識をもたせていきたい。

### 4 単元の目標

玉川野毛町公園が地域に根差した公園であることに気づき、地域の自然や人、場所の存在について深く考え、他者と関わることのよさに気付くことができるようにする。自分たちが住んでいる町に目を向け、住んでいる人たちが喜ぶために何ができるか考えられるようにする。

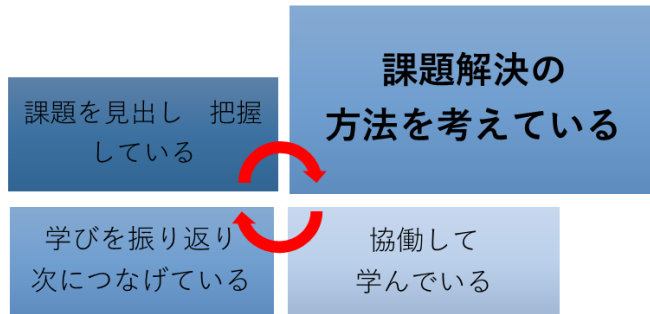
### 5 単元の指導計画 3 4 時間

	ねらい	課題解決の流れ○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
					知	思	主	方法
みんなであんけん、みんなではっけん(6)	自分たちが住む地域にある野毛町公園を探検し、公園にあるものや公園の様子を捉える。	見つける⑤  考える①	○自分たちが住む地域に玉川野毛町公園というものがあることに気付く。 ○安全に気を付けて野毛町公園の探検をし、公園にあるもの、公園の様子を見付ける。 ○野毛町公園で発見したこと、気付いたことをまとめる。	国語「かんさつ名人になろう」 道徳「虫が大すき アンリ・ファール」 道徳「きまりのない学校」	ア	オ	ケ  コ	観察 発言 付箋 ワークシート
あったらいいなこんな公園(22)	玉川野毛町公園(こども広場)に新設する遊具は何がいいか考える。	見つける③  考える③(本時)	○新しい遊具を考えると目的を意識して公園探検を行う。 ○探検をしてあるといいと思った遊具を考えワークシートに書く。 ○「誰もが喜ぶ遊具」をテーマにグループでどのような遊具がよいか考える。	国語「メモをとるとき」「こんなもの、見つけたよ」	ア	オ	カ  コ	観察 発言 付箋 ワークシート 付箋
		考える④  いっしょに⑫	○自分たちがよいと思う遊具をどのように発表するか考える。 ○グループ発表に向けて準備をする。	道徳「花火にこめられたねがい」	イ ウ	キ	サ	観察 発言 ワークシート

<p>みんなであつたえよう (6)</p>	<p>他者に伝えたいことを考え、発表することができる。</p>	<p>いっしょに④ つなげる②</p>	<p>○保護者に向けて、発表会を行う。  ○発表の振り返りをする。 ○これまでの活動を振り返り、したことや、もっとやってみたいことなどを伝え合う。</p>	<p>国語「すてきなどころをつたえよう」</p>	<p>エ</p>	<p>カ  ク</p>	<p>サ</p>	<p>観察 発言 発表 ワークシート</p>
---------------------------	---------------------------------	-------------------------	---	--------------------------	----------	---------------------	----------	------------------------------------

## 6 本時の指導

### 【せたがや探究的なまなびのプロセス】



### (1) 本時の目標

町の人たちが喜ぶような、野毛町公園にあったらいいなと思う遊具を考え、グループで話し合う。

### (2) 本時の展開 (1 1/3 4 時間)

児童の活動	◆評価規準 ( ) 評価の方法 ○留意点
1 これまでの学習を確認する。	○前時に行った、玉川野毛町公園 (こども広場) アンケートについて振り返り、本時の活動を知る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>【町の人たちがよろこぶ】公園のゆうぐを考えよう</b> </div>	
2 それぞれが前時のアンケートに書いた内容をグループで共有する。	○発表の仕方を確認した上でグループになり、発表を行う。
3 公園を利用する人はどんな人がいるか確認する。 小中学生 ほいく園ようち園の子 赤ちゃん お年より 大人	◆みんなで地域を探検して発見したことについて、気付いたことや考えたことを表現している。 【コ 主体的に学びに向かう力・人間性】(観察)
4 町の人たちが喜ぶ公園の遊具についてグループで考える。 ・自分の考えを伝えたり、友達のことを聞いたりする。 ・どんな遊具があるとよいか考え、紙に書く。	○どのような遊具がそれぞれの世代の人に喜ばれるかを意識しながら話し合いをするように声かけする。
5 今回の活動について振り返る。 ・振り返りシートに記入する。	◆地域の人や場所と関わる活動について、自ら進んで関心を持ち、積極的に地域と関わっていかうとしている。 【コ 主体的に学びに向かう力・人間性】(ワークシート)

### (3) 板書計画

たまづつみたんけんたい ～大すき野毛町公園～

町の人たちがよろこぶ公園のゆうぐを考えよう

公園をつかう人

- ・小中学生
- ・ほいく園ようち園の子
- ・赤ちゃん
- ・お年より
- ・大人

野毛町公園地図

### 7参観の視点

- (1) 「せたがや探究的な学び」に即した授業（単元）になっていたか。
- (2) 学習形態の工夫（個人→グループ）によって児童は主体的に話し合いに参加したり、友達と協力して考えを深めたりしていたか。

### (1) 研究協議

#### ① 学年より

- ・昨年度の2年生が学習していた野毛町公園の指導計画を基に、授業計画を立てた。公園事務所や公園に関わる緑地課の方と連携しながら学習を進めている。
- ・昨年度、児童は玉堤地域のよさについて学習している。今年度も連続し2年間を通じた単元計画になるように工夫した。
- ・生活科の学習は評価をする必要があるため、単元計画に生活科の学習内容を取り入れる必要があり工夫した。

#### ② 授業者自評

- ・本学級の児童は、発想力が豊かである。前時までの学習でも、公園に行って感じたことをたくさん話し合ってきた。
- ・本時の授業では、緊張感からか普段よりも思考の広がりが薄くなってしまった。遊具をもっと自由に出せるように工夫していきたい。

#### ③ グループ協議より

- アンケートの結果から授業に入ったことで、児童の学習への意欲につながった。
- 個人活動からグループ活動という流れで学習を行ったことで、話し合い活動が深まった。
- △「町の人」という視点で考える時間を設けられるとよい。  
→「町の人」がどんな人を指すのか明確にすべき。
- △振り返りの仕方が難しい。  
→話し方、聞き方に合わせた評価にできるとよい。

## **(2) 指導講評**      **〔講師：伊藤 修久 校長先生〕**

主体的に授業を進める（客体的でなく、自分の考えを基に学習を進められる）ことができるように疑問をもたせる仕掛けを考えられる教員を目指して行ってほしい。

生活科の目標に沿った学習計画になっていた。単元のネーミングがとてもよかった。身近な公園を題材にしていることで地域に親しみをもって生活をしたり、正しく公共施設を利用しようとしたりすることにつながっていくのではないかな。

児童にとって自分たちの考えた遊具が実現するという事は、夢のプロジェクトである。「町の人たちが喜ぶ」公園の遊具を考えようと意欲につながる。

本時の授業では、1枚の紙でグループ活動をすることで思考の広がりが見えた。前のめりになって意欲的に活動する姿はとてもよかった。

## **(3) 成果と課題**

### **〈成果〉**

- ・児童にとって身近な題材であったため、主体的に学習に取り組む姿が見られた。
- ・体験したことからよさに気づき、探究的な学習につながっていた。

### **〈課題〉**

- ・視点が自分たちばかりで、周りに目を向けることが難しかった。

## 第3学年 総合的な学習の時間 指導案

令和6年10月16日（水）5校時

3年3組32名

**1 単元名** 人も生き物もくらしやすい未来を目指そう！～多摩川ふしぎ大発見！～

### 2 単元について

#### （1）単元の捉え方

玉堤小学校の近隣には古墳が点在したり、都内唯一の等々力溪谷や多摩川が隣接したりと、自然を感じられる場所であるが、遊び盛んな3年生にとっては物足りない地域である。

かつての多摩川は、夏になると水遊びを楽しみ水中の生き物を捕まえたり多摩川の花火を船に乗って楽しんだり、人々の憩いの場であった。それが、時代とともに人々の生活様式が変化してきて豊かになった反面、生活排水やプラスチックゴミなどで水質が悪化し、自然が豊富だった多摩川は生き物が住みづらい環境にまで陥ってしまった。その変化に気付いた人々は、昔の多摩川を取り戻そうと努力を積み重ねてきた。その結果、現在の多摩川は、以前の生態系に少しずつ戻りつつある。

この多摩川の生き物の命を、次世代へとつなげていく大切さを考えることは、自然に関心をもち、生命の尊さを感じるこの期の子どもたちにとって有意義だと考えた。

本単元では、多摩川を通して生き物の多様性を知り、その生命を維持させていくために、自分たちができることは何かを考えて行動する態度を養いたい。

#### （2）単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

生き物の多様性を実感し、自分ができることを考え行動していく児童を育てるには、まず、一人一人が自分の課題を持つことが大切である。このこだわりのある課題が「せたがや探究的な学び」の原動力となる。そして、計画・探検・まとめ・共有のスパイラルを通して、「せたがや探究的な学び」を実践していく。

個々の課題について調べ、獲得した知識を使って考え、さらに視点を広げるために、シンキングツール（くらげチャート）を活用して情報を整理していく。そして、友達が調べた生き物の生態と比較することで、友達の考えに共感しながら多様な考え方やとらえ方ができるようになってくる。

この探究的な学びを通して、生き物の多様性の大切さを実感し、その生命を維持させていくために、自分たちができることを考えて行動していけるような児童を育てていきたい。

### (3) 主題に迫るための手立て

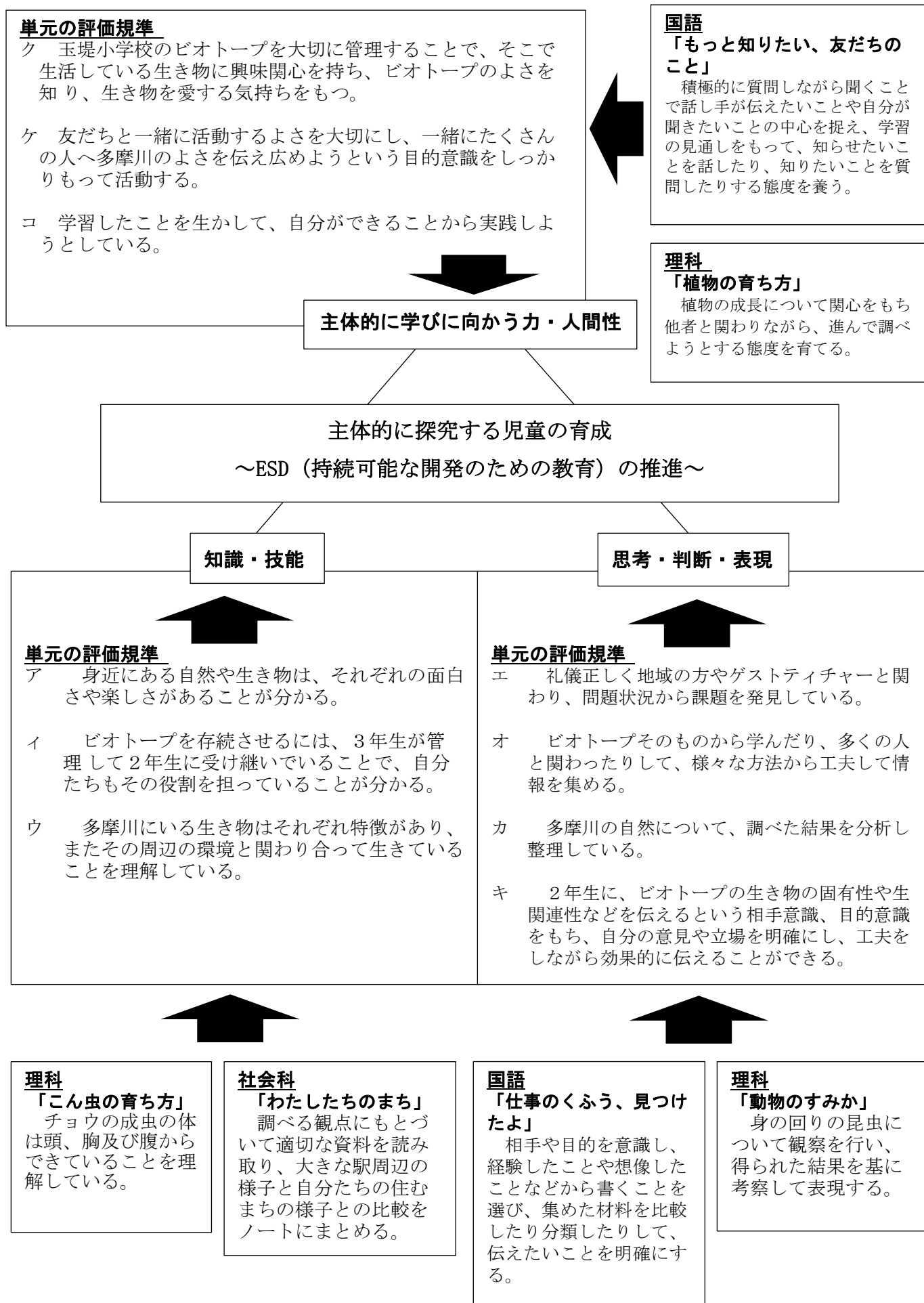
- 「指導計画の工夫」
  - ・計画、探検、まとめ、共有のスパイラル
- ポートフォリオの活用
  - ・学習を記録し、学んできたことを振り返るとともに、今後の見通しをもつ
- シンキングツールの活用
  - ・調べた内容を整理して、新たな課題につなげるためにシンキングツールを活用する
- 地域・保護者との連携
  - ・二子玉川公園
  - ・きぬたま遊び村
  - ・ビオトープギルド
- 授業形態の工夫
  - ・調査内容ごとのグループ学習
  - ・全体、グループ学習
- 2年間を通した単元設定
- ICTの活用
  - ・写真、動画の共有
  - ・シンキングツールの活用

### (4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
主体性と協働性	自然探検をして分かったことや考えたことを発表するために、主体的に自分の課題にした生き物を調べたり、友達と協力してものごとを進めようとしたりすることができる。
多様性の尊重	これからの自然環境を守っていくために、自分たちにできることを考え、実践しようとするすることができる。



(5) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント



### 3 児童の実態

1・2年生の生活科において、植物を育てたり動物と触れ合ったりする経験をしてきた。2年生では多摩川の川辺で昆虫採取を行った。そのため、多摩川には動植物がいることを理解しており、多摩川に親しみがあるといえる。また、「こうえんたんけん 大はっけん!」では、視点を変えながら幾度も野毛町公園を探検し、探究のプロセスを繰り返してきた。また、考えたことを整理するためにシンキングツール（クラゲチャート、Yチャート）を活用して自分の考えを整理する力を付けてきている。

3年生になり、総合的な学習の時間が始まり、年間を通じて動植物に触れ合う機会が増えた。特に、二子玉川公園に2回訪れて、春と秋の虫や植物を捕まえたり、観察したりした。葉の色や花、虫の大きさが違うことを施設の方に見せてもらった。ビオトープギルドの先生からは、校庭にあるビオトープの管理を学び、ビオトープの構造やその特徴によって住む動植物が違うこと、またメダカの体の特徴について学んだり、ビオトープに住む虫を観察したりした。また、今年度は「ヤゴ救出大作戦」を行い、学校のプールでヤゴとりをし、教室でお世話をしてトンボになる様子を観察することができた。

本学級の児童は、何事にも意欲的に取り組む様子が見られる。生き物に対しても同様に、興味関心をもって学習に取り組むことができている。しかし、生き物をつかまえることは積極的にするが、えさやりなどのお世話は一部の児童に偏ってしまっている。多摩川の学習を通して、生命の尊さを考えるとともに、自分たちができることを考え、行動しようとする態度を育てていきたい。

### 4 単元の目標

多摩川にいる生き物に対する自分たちの愛着や思いと、様々な人たちが多摩川の環境を守ろうとしていることを理解し、生命の尊さを考えるとともに、自分たちができることを考え行動しようとする。

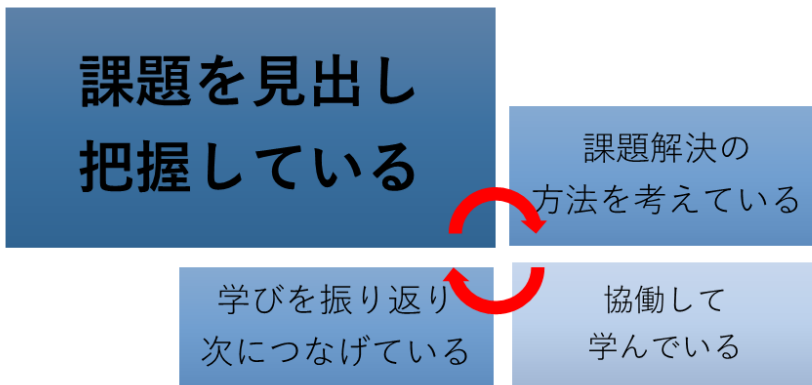
5単元の指導計画

48時間

	ねらい	探求のプロセス○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
					知	思	主	方法
ビオトープの自然にふれよう②⑤	ビオトープ作りの取り組みを通して、生き物が住みやすい環境を考える。	見つける⑥  考える⑩  いっしょに②	○G Tの方から、生き物が住みやすいビオトープについて話を聞き、生き物に興味をもつ。 ○ビオトープで生き物を観察する活動を通して、自然の豊かさや生き物の面白さ、ビオトープのよさを感じる。 ○「ビオトープに、たくさんの方が訪れ、自然を感じてほしい」という願いをもって、広める方法を考える。 ○「ビオトープ発表会をなぜ行うのか」という目的意識と、誰に対して行うのかという相手意識をもって準備を行う。 ○報告会を行う。	理科「こん虫の育ち方」「植物の育ち方」  国語「もっと知りたい、友だちのこと」		エ	ク	観察 発言 ワークシート 発表
	自分にできる取り組みの計画を立て、実施する。	つなげる① 見つける② 考える③	○体験や調べたことを振り返る。 ○ビオトープの現状から問いを見付ける。 ○自分たちにできるアクションを考え、計画を立てる。					
多摩川の魅力を伝えよう②③	多摩川のよさを見付ける活動を通して、生き物が互いに関わり合っ環境が保たれていることを知る。	つなげる① 見つける①(本時)  考える⑥  いっしょに⑧	○地域のよさを再確認する。 ○多摩川の現状を調査する。 ○G Tと多摩川の自然を調査する。(魚・鳥・虫・植物) ○G Tや資料から生き物の生態を調べる。 ○調査して分かったことを持ち寄り、多摩川ガイドマップを作る。 ○多摩川のよさを伝える。	理科「動物のすみか」「植物の育ち方」  社会「わたしたちのまち」 国語「仕事のくふう、見つけたよ」	ア	エ	ケ	観察 発言 ワークシート 発表
		つなげる① 見つける② 考える④	○体験や調べたことを振り返る。 ○多摩川の生き物から問いを見付ける。 ○自分たちができることを考える。		ウ	オカ	コ	

## 6本時の指導

### 【せたがや探究的なまなびのプロセス】



#### (1) 本時の目標

調べる内容について友達と意見を共有し、自分の考えを広げる。

#### (2) 本時の展開 (32/48時間)

児童の活動	◆評価規準 ( ) 評価の方法 ○留意点
1 今までの活動内容を確認する。	
「フシギダネ」をたくさん増やして、伝え合おう	
2 みんなに伝えたい「フシギダネ」を考えて調べる。	○自分が調査する生き物について調べたいこと（フシギダネ）をシンキングツールでキーワードを整理する。
3 調べたい内容を友達と共有する。	○ペアで共有し、新しい項目があったら、自分のワークシートに記入する。
4 「フシギダネ」の中から、よりみんなに伝えたい内容を3つ選ぶ。	◆友達の意見を参考に、自分の考えを広げているか。 【カ 思考・判断・表現】（ワークシート）
5 今回の活動の振り返りを書く。	○今回の活動を振り返り、まとめてみて気付いたことや分かったことを発表させる。

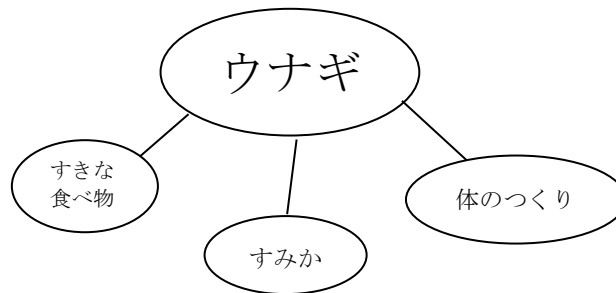
### (3) 板書計画

多摩川ふしぎ大発見！

**課題** 「ふしぎのたね」をたくさん発見して、伝え合おう

本時のよてい

- ①考えるタイム
- ②共有タイム
- ③考えるタイム
- ④ふり返りタイム



### 7 参観の視点

- (1) シンキングツールは、児童の考えを整理するために有効であったか。
- (2) 共有タイムは、調べるキーワードを広げるために有効であったか。

#### (1) 研究協議

##### ① 学年より

- ・多摩川水質悪化→生態系崩れる→昔の多摩川を取り戻そう という探究学習を行っている。
- ・生き物の多様性を知り、行動できる態度を育てたい。
- ・課題を一人一人が見付けられ、生命の大切さに気付き、行動できる児童を目指している。

##### ② 授業者自評

- ・学級の児童は、意欲的に学習に取り組んでいる。
- ・「フシギダネ」「進化」案は、児童から出ている。  
「進化」→考えが広がった の共通認識をしている。
- ・シンキングツールは、クラスによって使うものを変えてみている。
- ・共有の仕方は、考えを広げるために同じグループは3人までとした。

##### ③ グループ協議より

1…1の視点 2…2の視点 他…その他の意見

1…有効であった。

本時は整理までは行っていなかった。可能なら調べる順番に並べ替えをすると、より良さをいかせるのではないか。

ツールを埋める＝目標を達成できる の構図がよい。

児童によって入力の違いがあった。マンダラチャートならば、たくさん疑問が増えるのではないかな。

2…書けていない児童が書けるようになっていた。共有の後の吟味する時間があるとよい。

調べるものが難しいものがあった。

「知りたいものがもっと広がった」と振り返る児童がいた。

もっと他の考えに目を向けられる工夫があるとよい。

児童のモチベーションにつながっていた。

他…調べるものが決まってから現地に調べに行くのもよいのではないかな。

←見つからない児童もいるかもしれない。

めあては「伝えよう」ではなく「広げよう」なのではないかな。

自分が調べるものについてよくわかっていない児童がいたが、どう進めていくのか。

## **(2) 指導講評**      **【講師：棚橋 乾 先生】**

○探究学習において子どもたちの主体性・協働性を養う。

・発達段階に応じて、学習を進める。

今回は、担任が時間を切って行っていた。

何回か行う→子どもたちが慣れる→自分たちでできるようになる（教師が手を離す）

・目的を明確にする。

児童が自らゴールに向かって動けるようにする。

3年生は総合のスタート。

4年生、5年生…と段階的に児童だけで動けるようにする。

○授業について

・よかった点

子どもも意欲的で面白い授業であった。

「フシギダネ」「進化」などのキーワードは、子どもの意欲を高めていた。

本時の流れが提示されており、わかりやすい。

・改善できる点

担任はもっと話さなくてよい。

多摩川に行ったのにいない生き物を調べる児童がいた。

テーマが決まってから確認しに行くのもよい。←季節によって違うので難しいかな…

ドーナツチャートが使いやすいのではないかな。

単元のラストは、「ポスターを使って多摩川の近くに貼ってみる」などのアクションを入れてあげると楽しいのでは

## ○質疑応答

- ・調べ学習にAIを使うのはどうなのか。

→これから「自分の考えを出す→まとめる→表現する」を体験していく小学生が、AIにその機会を奪われてしまう危険性がある。発達段階でやっておかないといけないことがある。

- ・調べるツールとしてはどうか。

→検索ワードを入れる手間すらも省かれる。最初は苦労させた方がよい。

しかし、やってみてその差を結果として出してみてもは。

### **(3) 成果と課題**

#### **〈成果〉**

- ・児童の意欲を高める手立てができた。
- ・児童の考えを広げることができた。

#### **〈課題〉**

- ・児童の考えを広げることができたが、その考えを最終的にどのように集約してまとめていくかの方法も検討する余地があると感じた。
- ・もっと児童の思考の流れにそって進めていけると、より意欲的に活動に取り組める。

<研究主題>

主体的に探究する児童の育成  
～ESD（持続可能な開発のための教育）の推進～

## 第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年11月20日（水）5校時

4年3組28名

### 1 単元名 人も生き物もくらしやすい未来を目指そう！～ごみごみダイエット大作戦～

#### 2 単元について

##### (1) 単元の捉え方

本単元では、学校や家庭の生活の中でごみが発生する場面を想起したり、日本の社会の中でごみが発生する場面を知ったりすることから、ごみを減らすために自分に何ができるかを考え実践することで身の回りのごみを減らすアクションを知り、行動に移すことを目標としている。

日本では埋め立て地を利用したごみ処分を長年にわたり行ってきたが、今のペースで埋め立てを行っていると20年前後で埋め立て地の限界が来ることが示唆されている。また、先進国と比べてリサイクル率が低いこと、日本の食品ロスが1年で約612万t、国民一人一日あたり茶碗1杯分の食料を捨てていることになる。子どもたちは、社会「ごみの処理と利用」の学習でごみの処理と減量やリサイクルの現状について学習している。本単元を通して、日本のごみ問題の現状を自分事として捉え、自分たちにできることを考える活動を通して、日常の諸問題を解決する方法を考え実践につなげようとする態度を養いたい。

##### (2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

ESDは、環境の課題を自分事、我々事、として捉え、多くの主体と連携しながら解決へのプロセスを共に歩むことが大切である。

2学期の総合的な学習の時間で「パラリンピック種目をつくろう」に取り組んだ。様々なゲストティーチャーから「障がい者に障害があるのではなく、障がい者が生活する上での困難や壁が障害となっている。」ということを知り、障害への理解を深めた。障害をもつ人も暮らしやすくするために障がい者の気持ちを理解することを課題として、障がい者が安心して楽しめるパラスポーツを考え、実践する活動を繰り返し、障がいをもつ人と共に過ごすために自分ができることについて考えを深めることができた。

本単元では、身の回りのごみ問題を振り返ることで、自ら問いをもち、課題を設定することにつながると考える。課題を解決するための方法を考える際は、友達と意見を出し合い、共有することで様々な課題があることに気付かせ、整理して解決方法を考えさせたい。友達と考えた解決方法を実践、分析した結果について成果と課題を整理し、次の課題設定をする、というサイクルを繰り返すことで、ごみ問題に対する自分の考えの変化に気付けるようにしたい。



### (3) 主題に迫るための手立て

○指導計画の工夫

他教科と同様の学習の流れに沿うことで、見通しをもって探究活動を行うことができる。

○ポートフォリオの活用

学習内容の振り返り、次に学びたいことを計画することで、児童が課題を段階的に解決することができる。

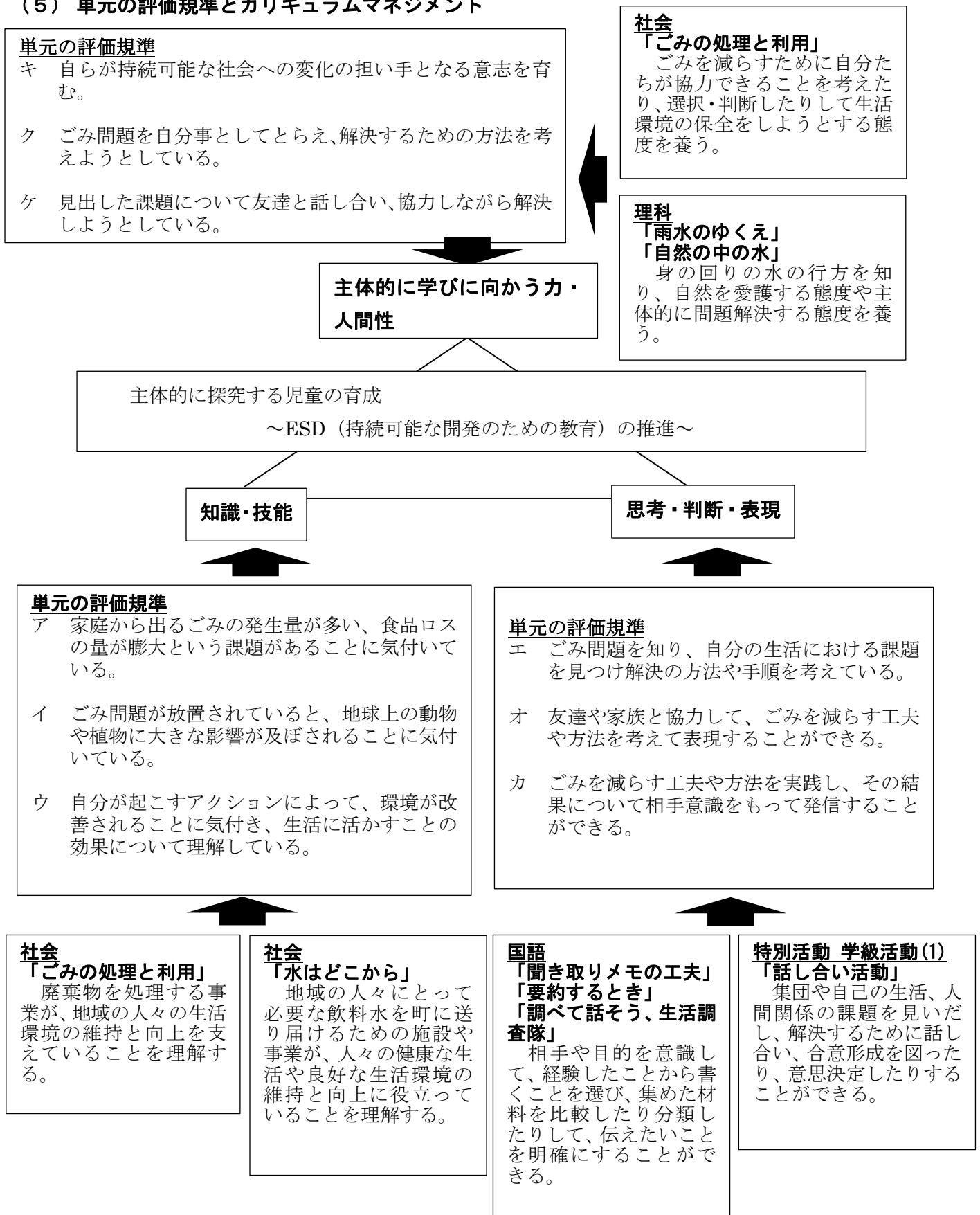
○2年間を通した単元設定

取り組みのつながりや2年間で身に付けさせたい力を考えた単元を設定した。

### (4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
主体性と協働性	・ごみを減らすために考えたアクションを共有し、より効果的な活動を見出せるように、主体的に話し合いに参加したり、友達と協力して考えたごみを減らすためのアクションを進めようとしたりすることができる。
創造性・新たな価値を創造する力	・ごみの現状を知り、課題を解決するための方法を考える際に、目的を明確にしながらい既存の解決方法にとらわれず、自分たちにできることを考えることができるようにする。

**(5) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント**



**3 児童の実態**

本学級の児童は、学びに主体的に取り組むことができる児童が多く、見通しをもって学習を進めることができるようになってきている。小グループで意見を出し合ったり、協力して1つのことを仕上げたりすることについては抵抗なく楽しみながら取り組むことができる。1学期は障がい者の困り感について考え、どんな人が何に困っているのか調べ、それを解決するための秘密道具を考えて発表した。2学期はパラスポーツのゲストティーチャーを招いた体験・講演を通して「障がい者にとって、環境や差別的な考え方が障害となっている。」ということを知っている。誰もがともに楽しめるパラリンピック種目をグループごとに意見を出し合いながら考案し、創り出した種目を全員で体験したことから障がい者の気持ちを理解し、さらに障害への理解を深め、自分にできることを考えた。

本単元の学習を通して、日常生活の様々な場面で、ゴミに関する課題があることに気づき、その解決のために自分ができることを考え、行動することによる変化を大切にしたい。

#### **4 単元の目標**

ごみに関する課題が数多くあることを知り、その課題を自分事として捉えてごみを減らす工夫や方法を考え、表現することができるようにする。

5単元の指導計画 28時間

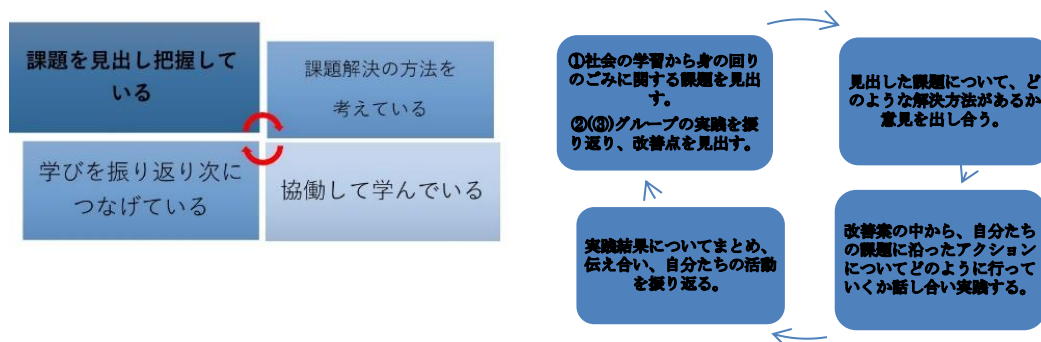
ねらい	問題解決の流れ○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
				知	思	主	方法
社会「ごみの処理と再利用」…ごみ問題の歴史や、分別して回収されたごみの行方について知った。自分たちの生活の周りのゴミに着目し、国内や外国のごみ問題と取り組みについて調べ、気になることややってみたいことを共有する。							
日本のゴミ問題、家庭、学校のゴミ問題から、それを削減することのメリットを知り、自分にできる取り組みについて考えることができるようにする。	つかむ②	○既習を想起し、ごみ問題の歴史と現状の課題をおさえる。 ○3R意識、実践率の低さ、食品ロス問題と食料不足について知り、課題について話し合う。	社会 「ごみの処理と利用」「水はどこから」 理科 「雨水のゆくえ」「けがたをかえる水」	ウ			観察 発言 ワークシート
	調べる④	○ごみの発生量について調べ、それを削減するためにできるアクションについて調べたり考えたりする。	社会 「ごみの処理と利用」	ア	オ	ケ	
	まとめる⑥	○友達と意見を交流し、実際に学級で取り組むアクションについて話し合う。 ○いくつかのアクションについて実践し、結果をまとめる。	国語 「聞き取りメモの工夫」 「調べて話そう、生活調査隊」			キ	
	伝える②	○実践したアクションについて結果を分析し、取り組みを広げるために必要な課題や改善点を整理する。 ○整理したことをどのように表現するか考える。 ○グループごとに考えた次なるアクションを発表、意見交流をし、学習の振り返りをする。	特別活動 学級活動(1) 「話し合い活動」 国語 「要約するとき」	イ		カ	

	<p>アクションを振り返り、より効果的なアクションについて考えることができるようにする。</p>	<p>つかむ② (本時)</p> <p>調べる④</p> <p>まとめる⑥</p> <p>伝える②</p>	<p>○1回目のアクションを振り返り、成果と課題を整理して、次のアクションへの課題設定をする。</p> <p>○課題にしたことについて、どんなアクションが効果的かを考えたり、調べたりする。</p> <p>○友達と意見を交流し、実際に学級で取り組むアクションについて話し合う。</p> <p>○いくつかのアクションについて実践し、結果をまとめる。</p> <p>○実践したアクションについて結果を分析し、取り組みを広げるために必要な課題や改善点を整理する。</p> <p>○整理したことをどのように表現するか考える。</p> <p>○グループごとに考えた次なるアクション前後の比較についてまとめ、発表、意見交流をし、学習の振り返りをする。</p>	<p>社会 「ごみの処理と利用」「水はどこから」 理科 「雨水のゆくえ」「けがたをかえる水」</p> <p>社会 「ごみの処理と利用」 国語 「聞き取りメモの工夫」「調べて話そう、生活調査隊」</p> <p>特別活動 学級活動(1) 「話し合い活動」 国語 「要約するとき」</p>	<p>ウ</p> <p>ア</p> <p>オ</p> <p>イ</p>	<p>エ</p> <p>ケ</p> <p>カ</p>	<p>ク</p> <p>ケ</p> <p>キ</p>	<p>観察 発言 ワークシート</p>
--	--	---	--	---	-------------------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------------

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

ごみ問題の課題についてのアクションを振り返り、成果と課題を整理して、次のアクションへの見通しをもてるようにする。



**(2) 本時の展開 (15/28時間)**

児童の活動	◆評価規準 ( ) 評価の方法 ○留意点
1 自分たちのアクションの振り返りをする。	○自分たちの思いやモチベーションを基にしたアクションについて成果と課題を見出すという課題に気付けるようにする。
自分たちのアクションを振り返り、成果と課題を見付け、次の活動について考えよう。	
2 グループごとに成果と課題について話し合う。	○自分たちのアクションについての実際の効果と、自分たちの気持ちの変化についての成果と課題を分けて考えることができるツールを提示する。 ◆自分が起こすアクションによって、環境が改善されることに気付き、生活に活かすことの効果について理解している。 【ウ 知識・技能】(ワークシート、発言)
3 次のアクションへ向けて大切にすることについて考える。	○2回目のアクションへ向けて、1回目のアクションから変えること、続けることについて考えられるようにする。
4 振り返りをする。	○次時の見通しをもてるようにする。

**(3) 板書計画**

課題 自分たちのアクションを振り返り、成果と課題を見付け、次の活動について考えよう。

<p><b>Keep</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみが減った。</li> <li>・効果的なアクションが分かった。</li> <li>・協力してできた。</li> </ul>	<p><b>Potential</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと効果が出るアクションにしたい。</li> <li>・グループのみんなともっと意見を出し合えるように調べたい。</li> </ul>	<p>次に向けて</p> <div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 100%;"></div>
--	--	--

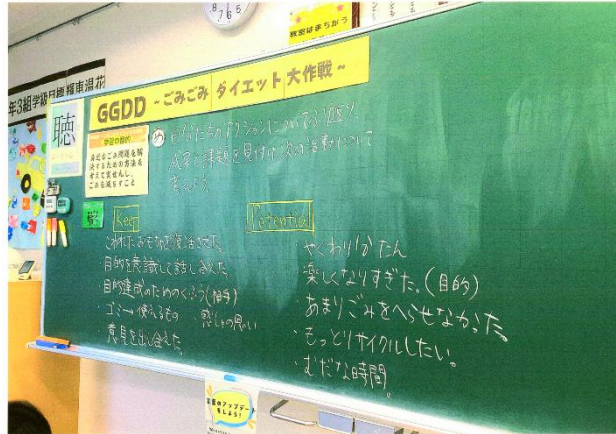
※Keep・・・よかったこと

Potential・・・もっとよくなること

**7参観の視点**

(1) 活動の振り返りの視点を「効果」と「取り組み方」に分類したことは効果的であったか。

(2) 授業改善の視点で「自分なら」「ここはこうの方が」等の意見をお願いします。



## (1) 協議会記録

### ① 学年より

1・2学期は障害をもつ人の困り感に寄りそった行動や取り組みについて考えた。本単元では社会科、ごみの学習の振り返りから自分、自分たちにできることは何かを考えさせた。ごみ問題を自分事として捉え、解決方法を友達と協力しながら粘り強く考えらえる児童の育成を目指していく。

### ② 授業者時評

昨年度の反省から、情報を与えずに子どもたちが話し合いたい内容を整理して話せることを心がけた。前時にあぶり出したグループのアクションに関する課題を整理する時間だったが、ツールの精選に課題があった。次のサイクルに向けて、子どもたちが見通しをもって事後授業に臨めるようにしたい。

### ③ グループ協議より

○意欲的に取り組んでいた。

○前時の振り返りが生きていた。

△ツールの使用について、同時に複数のことを考えさせるのは難しいのではないか。

△シンキングツールの使い方に混乱している様子が見られたので、各項目を減らしたり、長く考える時間をとったりしてもよかったのではないか。

△タブレットではなく紙でもよかったのではないか。

## **(2) 指導・講評【講師：棚橋 乾 先生・楠美先生】**

子どもたち自身で学習の方向性を作っているのは素晴らしい。関係のよさを感じた。タブレットを使うことに関して新しいことでも抵抗なく取り組むことができていた。シンキングツールの複数使用は難しい。検討が必要だった。

総合的な学習の時間で身に付けさせたいのは体験を通して価値観を持たせることや行動の変容。自分の考えが変わったかどうかについて考えさせるために振り返りを大切にしてほしい。振り返りでの子どもたちの自己評価に教師は価値づけたり、助言したりしていくとよい。

## **(3) 成果と課題**

### **〈成果〉**

- ・子どもたちの「ごみを減らしたい」という意思で計画から実践まで取り組むことで、子どもたち自身が成果と課題に気づき、実践に関する課題意識をもてたこと。
- ・子どもたちが「ごみを減らす」という社会問題について自分事として捉え、主体的に課題解決に向けて取り組む大切さに気付いたこと。

### **〈課題〉**

- ・シンキングツールの精選
- ・振り返りの視点



<研究主題>

主体的に探究する児童の育成  
～ESD（持続可能な開発のための教育）の推進～

## 第5学年 総合的な学習の時間 指導案

令和6年6月25日（火）5校時

5年1組33名

### 1 単元名 帰ってきたい玉堤 ～未来のためにできること～

#### 2 単元について

##### (1) 単元の捉え方

本単元では、30年後、50年後の未来の地球を見据え、より豊かな地球環境を残すために「今、自分たちに何ができるのか」を考えさせることを目標としている。

このままの生活を我々が続けていると、地球温暖化は進行し、今と同じような生活は送れなくなってしまうといわれている。「自分が社会や地球とつながっている」と捉える意識をもたせ、本単元では、「Sustainable」という言葉を活動の中心に置き、自分たちにはどのようなことができるのかを考えていく。世の中の課題に対して、「自分たちだけで完全な解決をすることは難しいけれど、自分たちが行動しなければ世界は変わらない。」ということに気付き、試行錯誤しながら繰り返し行動して通して、将来に渡って自分たちにできることを探究し続けようとする態度を養いたい。

##### (2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

解決したい地球の課題に向けて、せたがや探究的な学びのプロセス「学びを振り返り次につなげる（つなげる）→課題を見出し把握している（見つける）→課題解決の方法を考えている（考える）→協働して学んでいる（いっしょに）」を繰り返すことにより、地球が陥っている状況への興味を深め、主体的に問題解決に取り組むとともに、情報を論理的、統合的・発展的に捉える力を身に付けることができるのではないかと考える。アクションを振り返る際には、シンキングツール（情報分析チャートや分布チャート等）を利用して情報を分析する。様々なチャートを活用することで、多様な視点で課題に迫ることができるということに気付かせたい。また、学習を記録するためのポートフォリオを活用することで、学んできたことを振り返るとともに、活動の見通しがもてるようにする。

地球の未来、延いては地域や自分たちの未来を変えていくために活動することは、自己の生き方を考えることに繋がっていく。地球の課題について関心をもちながら、身の回りの事象から問いを見出し、自分にできることが何か考えられる児童を育てていきたい。

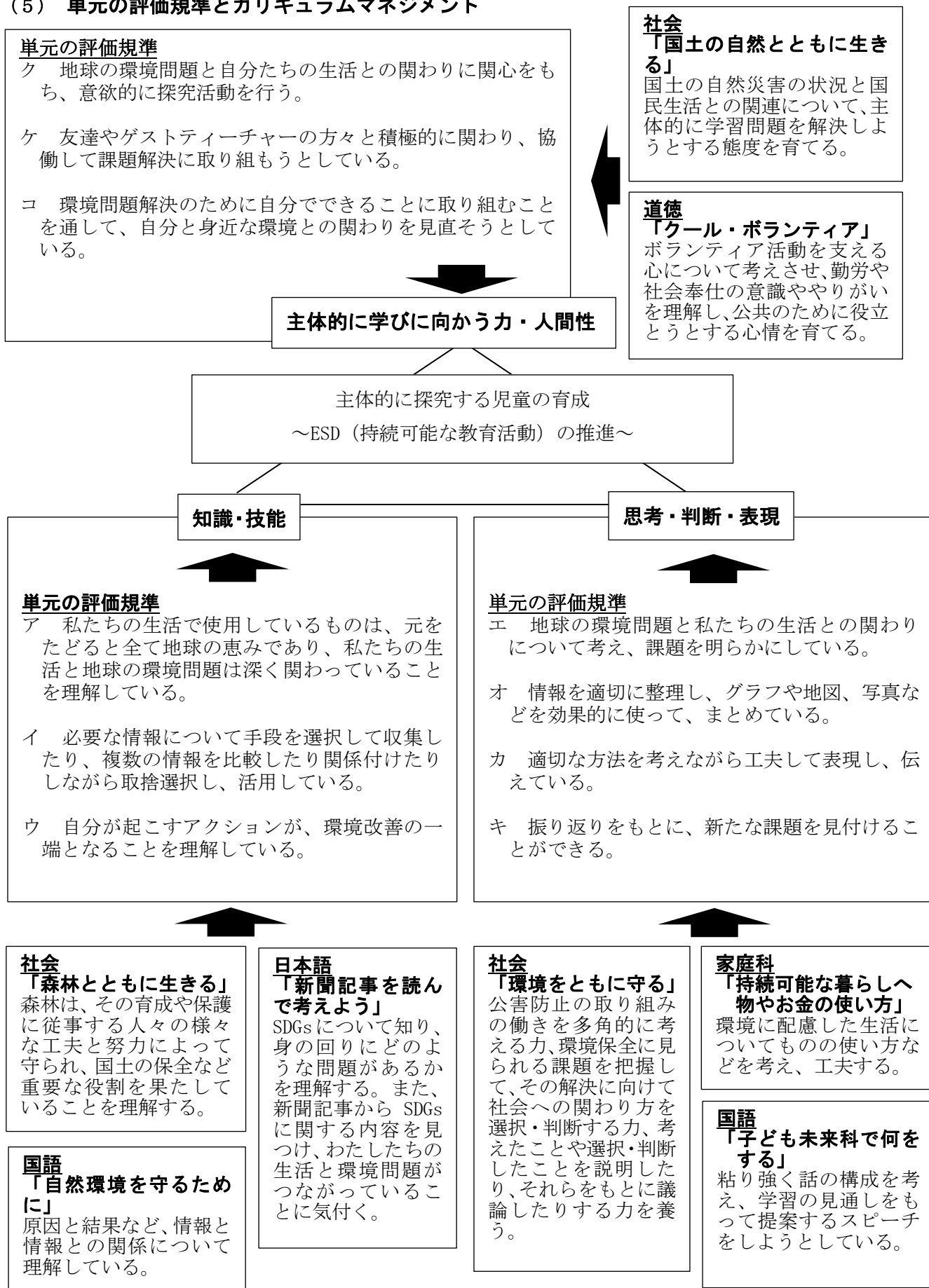
### (3) 主題に迫るための手立て

- 「学びのめあて」の設定
  - ・主体的に取り組むためのイメージをもたせる
- 2年間を通した単元設定
  - ・学年ごと取り組みのつながりや2年間で身に付けさせたい力を考えた単元
- 地域・保護者・企業との連携
  - ・近隣の公共施設
  - ・地域の方、保護者
  - ・教育と探求社 (Question X)

### (4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
責任ある社会的行動力	・地球にまつわる課題をもとに自分にできる取り組みを考え、行動に移すことができる。
問題解決能力	・行った取り組みを振り返り、継続的かつ効果的に取り組めるかどうか検討し、よりよい方法を考えることができる。

(5) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント



### 3 児童の実態

児童は、身の回りや社会の課題について、意欲的に調べたりまとめたりすることができる。昨年度には、日本のごみ問題に着目し、自分たちができるアクションを調べたり考えたりして実行をした。さらに、自分たちで考えたことを行動したり、表現したりすることが得意である。グループで協力しながら、自分たちでアクションを計画したり、発表の仕方を考えたりすることで、自分たちの学びを周りに共有することができた。

一方で、生活経験の少なさからか、考えたアクションの幅が狭くなってしまいう児童が多くいた。また、自分が調べたこと、行動したことに満足してしまい、学びを終わらせようとする児童もいる。

身の回りやこれまでの経験からアイデアを得るだけでなく、視点を変えて物事を見ることができるようになれば、問題解決のための探究がさらに深まるのではないかと考える。本単元の学習を通して、常に身の回りの事象に問いをもち、協働しながら探究的な学びを継続できるようにしたい。

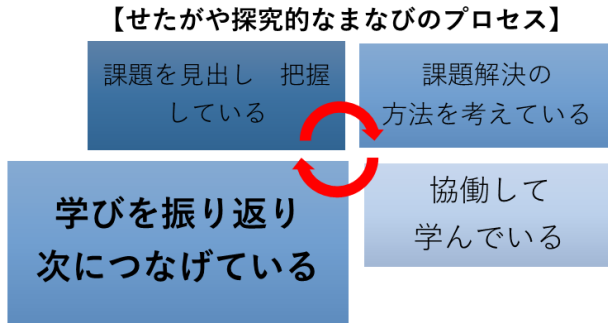
### 4 単元の目標

- ・ 地球環境の変化と危機的状況を理解し、それについて問いをもち、調べたことや考えたことを整理・分析して、まとめ・表現することができる。
- ・ 実生活の中で自分にできることを探究し、実行することができる。

5単元の指導計画 46時間

	ねらい	探求のプロセス○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
					知	思	主	方法
未来のためにできること(18)	地球の現状を知り、地球のためにできることを考える。	つなげる③(本時)  見つける②  考える⑧   いっしょに①	○いろいろな問いに出会い、発想を広げる。 ○世界の課題について知る。 ○課題と関連した問いを見付ける。 ○世界の国々や企業、人々がどのようなアクションを行っているかを知る。 ○地球の未来を変えるにはどのようなことができるのか調べ、まとめる。 ○報告会を行う。	社会「国土の自然とともに生きる」日本語「新聞記事を読んで考えよう」	ア  ア  イ	エ   オ  カ	ケ  ク	観察 発言 ワークシート
	自分にできる取り組みの計画を立て、実施する。	つなげる① 見つける① 考える②	○体験や調べたことを振り返る。 ○身の回りから問いを見付ける。 ○自分たちにできるアクションを考え、計画を立てる。  (アクションを実施する)	道徳「クール・ボランティア」	イ  ウ	キ  エ	ケ  ク	観察 発言 ワークシート
もっと未来のためにできること(16)	実践した取り組みについて振り返り、さらに効果的な活動を考えたり、新しい視点で活動に取り組んだりする。	つなげる① 見つける① 考える②  いっしょに⑫	○アクションについて振り返り、結果を分析する。 ○意見交換を行い、改善点を見出す。 ○改善したアクションを実施するための計画を立てる。 ○アクションを実践し、結果を確認する。 ○アクションでの成果をまとめ、報告する資料を作成する。 ○報告会を行う。	国語「自然環境を守るために」社会「森林とともに生きる」	ウ  イ	キ  エ  オ  カ	ケ  ク  コ	観察 発言 ワークシート
わたしたちにできること(12)	自分たちが調べたことや実践してきたことをまとめ、発信する。	つなげる① 見つける① 考える⑧  いっしょに① つなげる①	○クラスでの発表会を振り返る。 ○各グループで発表する内容を相談する。 ○表現方法を選んでまとめる。 ○他学年の人や保護者に向けて、発表会を行う。 ○これまでの活動を振り返り、したことや、もっとやってみたいことなどを伝え合う。	社会「環境をともに守る」家庭科「持続可能な暮らしへ物やお金の使い方」	イ	キ  エ  オ  カ  キ	ケ	観察 発言 発表 ワークシート

## 6本時の指導



### (1) 本時の目標

様々な「問い」と出会い、考え方の違いを認め合いながら発想を広げる。

### (2) 本時の展開 (2/4 6時間)

児童の活動	◆評価規準 ( ) 評価の方法 ○留意点
1 前時に行った QX を振り返る。	○多様な観点に触れ、問いに対する好奇心を喚起するため、異なるグループを編成する。
互いを認め合いながら、さまざまな「問い」と出会おう。	
2 本時の流れを確認する。 ① 約束の確認 ・ 意見を自由に出し合う ・ 互いに認め合うこと ② 手順を確認しながら1巡目のゲームを行う。 ③ グループのペースで続けて行う。	○問いに答えたり、問いを選んだりするときにそれぞれの考え方が異なることを体感し、その違いの面白さに気付くことができるようにさせる。  ◆協働して課題解決に取り組もうとしている。【主体的に学びに向かう力・人間性】(発言、ワークシート)
3 本時を振り返る。	○ゲームを通して、感じたことや心に残ったことについて自由に振り返ることができるようにする。

### (3) 板書計画

互いを認め合いながら、さまざまな「問い」と出会おう。

<p><u>約束</u></p> <p>① 意見を自由に出し合う。 ② 互いに認め合う。いいね!</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 40px; text-align: center;">おどろいた!</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 40px; text-align: center;">なっとく!</div> </div>	<p><u>ポイントゲット</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">① フセンに書けた <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">1P</span></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">② 最も「おどろき!」「なっとく!」の答え <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">指された数 P</span></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">③ もっと考えたい! 良い問い <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">指された数 × 3P</span></div>
--	---

## 8参観の視点

- (1) 児童の活動を参観しての感想の交流 (児童の発想や難易度 等)。
- (2) Question X での活動を今後の探究活動に生かすためのアイデアを考える。

## **(1) 研究協議**

### **① 学年より**

- ・児童は、楽しく、助け合いながら学習することができる。しかし、受け身であることが多く、児童発信の活動の広がりがあまりない。
- ・ゲームをして終わりにならないよう「問い」をもつという見方を強調し、学習のつながりを考えさせた。

### **② 授業者自評**

- ・何事にも自分の考えをもって取り組むことができる児童と、苦手な児童の差が激しい。グループ編成を工夫して活動を行った。
- ・授業については、予想以上に様々な意見が出た。テーマカードを児童の実態に応じて選んで行ったのがよかった。

### **③ グループ協議より**

- 初めに「見方」を提示したことで、考える方向性がぶれなかった。
- 児童がイメージしやすい話題について考えられるようテーマカードを抜粋したことで、児童の良さが引き出され、一人一人が輝いていた。
- 普段考えないようなことを考え、発想を広げるきっかけとなった。
- 児童の発想が面白く、子どもと大人の「いいね」の違いも見られてよかった。
- △児童の知識量によって、考えの広がりに差が見られた。
- △問いのカードをしっかりと見る時間をもう少し取った方がよかった。
- 教師が「問い」の工夫をしていくと、児童の発想をさらに変えていくことができる。
- テーマを「環境」にして「問い」について考えていくとよい。

## **(2) 指導講評**      **〔講師：棚橋 乾 先生〕**

自分の中にない、内面を考える機会になると感じた。児童の発想を受け止めるという教員のスタンスが大事になり、学級経営にもつながっていく。テーマ（地域や環境）を変えたり、内容を考えたりして行くと、発達段階に応じて利用できるのではないか。様々な学年でやっていくことで、児童の発想を柔軟かつ豊かにし、友達と意見を交流したり、合意形成したりできるようになるだろう。

## **(3) 成果と課題**

### **〈成果〉**

- ・自分の考えを表現することの苦手な児童が、限られた時間の中で何かを考え、自分の意見を話すきっかけとなった。
- ・他の人の意見の受け止め方の練習にもなり、互いを認め合いながら発想を広げることができた。

### **〈課題〉**

- ・QuestionX をきっかけに、様々な場面で自分なりの「問い」を立てられるようにつなげていかなければならない。子どもありきの活動を行っていくためにも、今後も児童の発想を広げるため工夫が必要。

<研究主題>

主体的に探究する児童の育成  
～ESD（持続可能な開発のための教育）の推進～

## 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年7月10日（水）5校時

6年1組32名

### 1 単元名 帰ってきたい玉堤～地域のためにできること～

#### 2 単元について

##### (1) 単元の捉え方

本単元は、将来児童が大人になったときに、玉堤地域に帰ってきたいと思えるように地域の課題を捉え、多角的な視点で地域を活性化するための方法を考えることを目的としている。

玉堤地域は自然が豊かで繁華街から離れているため、住みやすい地域といえる。国語「聞いて、考えを深めよう」での保護者インタビューの結果を見ると、保護者は子育てのしやすさを意識して玉堤地域に住むことを決めた方が多いようだった。しかし、地域探索にて地域の課題を調べてみると、「坂が多い」「公園が少ない」「量販店が少ない」など暮らしていく上で不便な点もあるようだった。

本単元の学習を通して、地域の課題やよさを再確認させ、新たな時代の担い手として当事者意識をもって生活をしていく視点を身に付けさせたい。

##### (2) 単元で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

探究的な学びを行う上で、最重要となってくるのは「課題の発見」だと捉えている。児童自らが与えられた条件の中で課題を発見することで、活動への意欲が高まっていく。本単元では、児童の「楽しい」「やってみたい」という気持ちに重点を置き、児童が課題を発見していくことができる授業デザインを行っていく。

単元の初めでは、課題の発見のために地域探索に出かけることから始めた。普段、歩き慣れている学区域を、学びの視点をもって歩くことで、課題の発見につながると考えた。また、カリキュラムマネジメントを行い、国語科や社会科での授業でも総合的な学習の時間の内容を想起させる取り組みを行ってきた。こうした取り組みを経て、児童が意欲的に課題を発見し、課題解決のための方法を適宜考えることができるようにしていく。

常に様々なことに疑問をもち、深めていきたい問いを探し続けることができる力を、探究的な学びのサイクルを繰り返しながら身に付けさせていく。



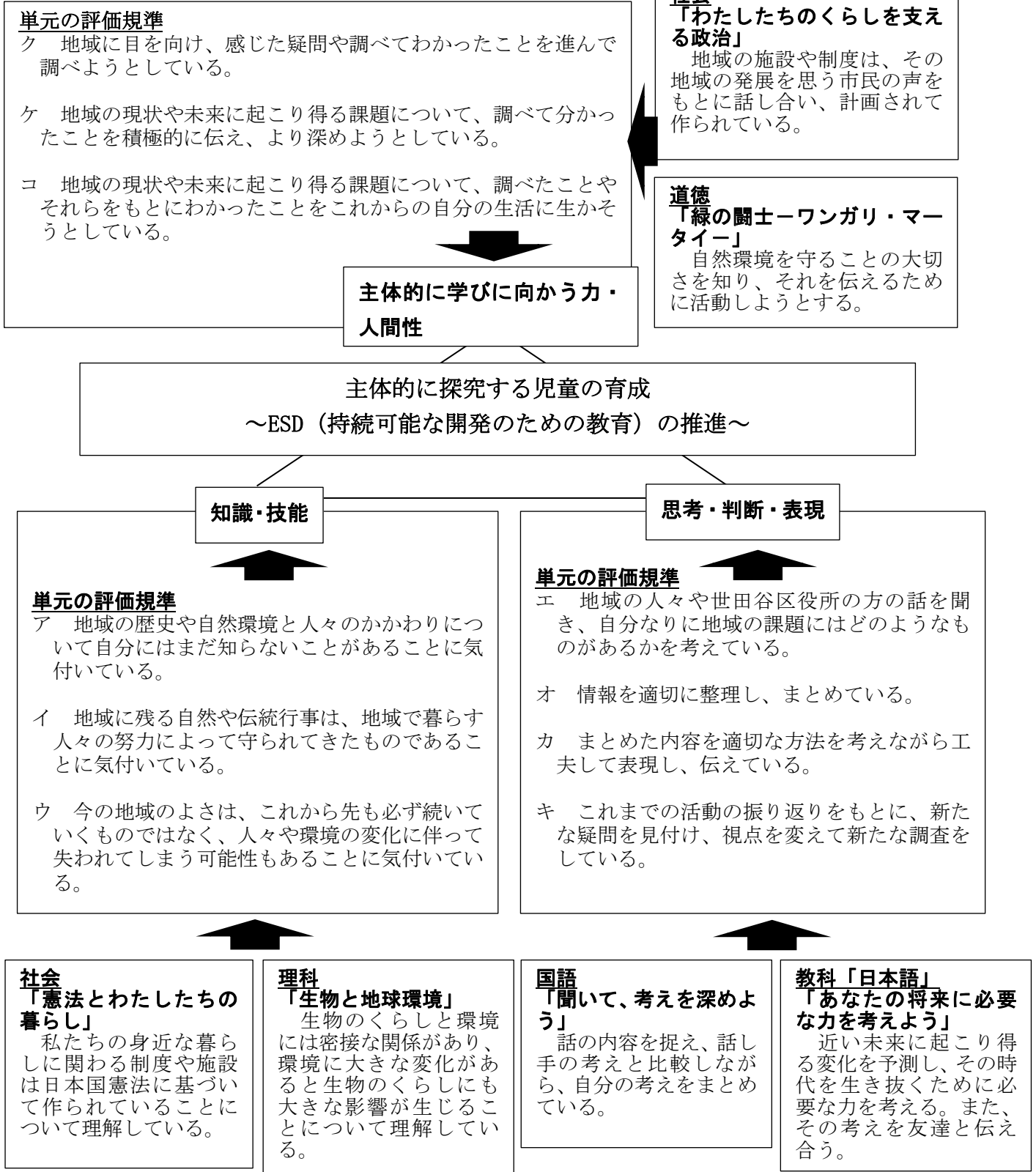
### (3) 主題に迫るための手立て

- 「地域探索」を通して課題発見を行う
  - ・地域をめぐって実際に児童が地域の課題を発見することで、より児童が興味をもつ単元計画とした。
- 2年間を通した単元設定
  - ・取り組みのつながりや2年間で身に付けさせたい力を考えた単元を設定した。
- 児童の発想を基にした単元計画
  - ・児童が「やってみたい」ことを計画し、教師がファシリテートしていく単元計画で授業を行い、児童主体の総合的な学習の時間を目指した。

### (4) ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

重視する能力・態度	具体的な姿
問題解決能力	・話を聞いたり、自分たちが発見したりした玉堤が抱える問題点について、自分たちで調べたり、話合ったりすることで、解決する方法を見出す。
環境に配慮したライフスタイル	・この地域で、豊かな生活を長く継続していくために必要なライフスタイルを考え、実践に向けて具体的な提言を考える。

**(5) 単元の評価規準とカリキュラムマネジメント**



### 3 児童の実態

本学級の児童は、自分の考えをもって考えを共有し合うことができる児童が多い。学習内容に興味をもって学習し、新たな疑問をもつことができる児童も見られる。しかし、クリエイティブに新しいことを考え、それを継続的に続けていくことがなかなかできない。できることには限界があると感じ、途中で諦めてしまう。

本単元の学習を通して、地域をよりよくするために新たな時代の担い手としての意識をもって活躍していく児童を育てたい。

### 4 単元の目標

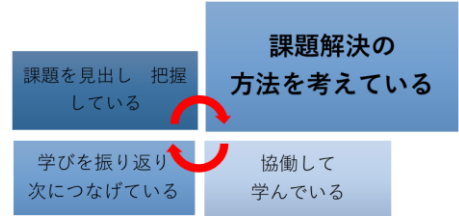
地域に目を向け、現状の地域の課題とよさに気づき、どのような取り組みをすれば地域がよりよくなるのか提案を整理して表現し、積極的に地域をよくしていくために行動できるようにする。

### 5 単元の指導計画 4 5 時間

	ねらい	探究のプロセス○時間	○主な学習活動	教科との関連	評価			
					知	思	主	方法
帰ってきたい玉堤①(18)	地域に目を向け、地域には、解決すべき課題やよさがあることを知り、地域をよりよくするためにできる「面白い」提案を発表できるようにする。	見つける③ 考える③ いっしょに⑥ つなげる④ 見つける①(本時) 考える①	○玉堤地域の課題やよさほどのようなものがあるか調べる。 ○集まった課題やよさを整理して、地域でできたら「面白い」取り組みを考えることができるようにする。 ○提案をまとめ、発表資料を作ることができるようにする。 ○提案内容の中から、クラスプロジェクトを決定する。 ○プロジェクトを実行するために壁となる課題を発見し、分析する。 ○分析した課題を解決するためにはどうすればいいか話し合い、まとめる。	社会「憲法とわたしたちの暮らし」 理科「生物と地球環境」 国語「聞いて、考えを深めよう」	ア イ ウ カ	オ エ オ	ク ケ キ	観察 発言 発表 学習用アプリ
帰ってきたい玉堤②(20)	クラスプロジェクトを実行していく計画を立て、計画に沿ってプロジェクトを実行していく。	考える② いっしょに⑫ つなげる① いっしょに⑤	○実行に向けてプロジェクトの課題を確認し、「実行できるプロジェクト」を考える。 ○地域の大人や専門家に相談しながら、プロジェクトを形にするために活動する。 ○活動の成果を確認し、振り返る。 ○総合発表会に向け、発表資料を作成する。	道徳「緑の闘士ワンガリ・マータイ」 社会「わたしたちの暮らしを支える政治」	ウ	キ オ キ	ケ	発言 発表 学習用アプリ 発表ソフト

帰ってきたい玉堤③⑦	総合発表会に向けて、発表資料をまとめ、発表することができるようにする。	いっしょに② 考える② 見つける①	○それぞれが調べた内容をもちより、情報を整理しながら発表に向けてまとめる。 ○調べたことを保護者、下級生に発表することで、地域についての思いを広げる。 ○これまでの学習内容を振り返り、今後地域にどのように関わっていくかを考える。	日本語「あなたの将来に必要な力を考えよう」 国語「今、わたしは、ぼくは」	イ	キ	オ	カ	コ	発言 発表 学習用 アプリ 発表ソフト
------------	-------------------------------------	-------------------------	--	---	---	---	---	---	---	---------------------------------





## 7 本時の指導

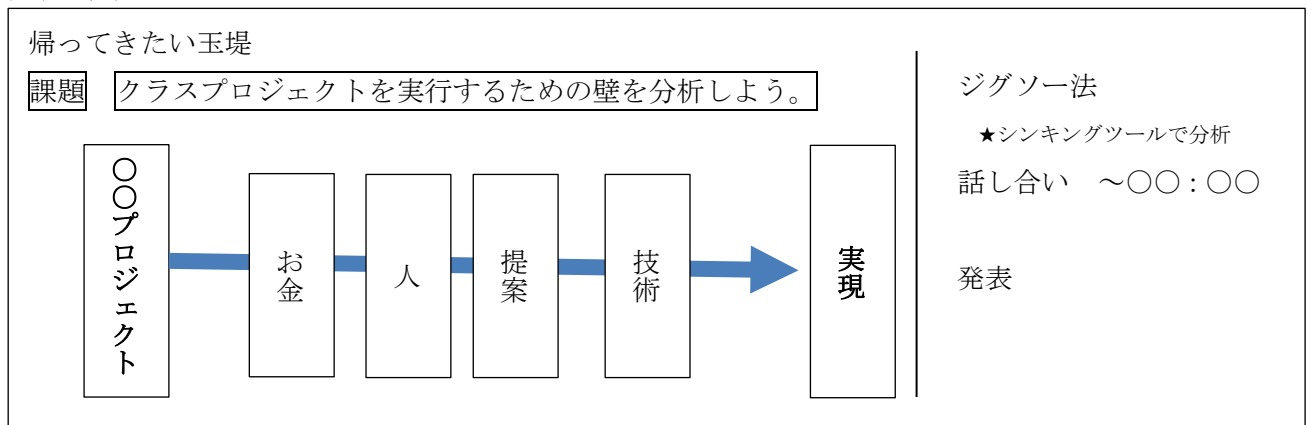
### (1) 本時の目標

クラスプロジェクトを実行するための壁を分析しよう。

### (2) 本時の展開 (17/40時間)

児童の活動	◆評価規準 ( ) 評価の方法 ○留意点
1 クラスプロジェクトを確認し、どのような壁があるか話し合い、課題を提示する。(7分)	○目標を確認し、クラスプロジェクトを実現させるために課題を分析する。 ○「壁となる○○」と言い換えられるように教師が言葉を精選して板書する。 ○現在の課題は「壁」であり、壁には「迂回」「穴を抜ける」の方法で対処できることを伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">                     クラスプロジェクトを実行するための壁を分析しよう。                 </div>	
3 壁に対処するために、壁はどのようなものかジグソー法で分析する。(20分)	○シンキングツールを効果的に活用することで壁の内容を分析できることを確認する。 ○活動時間を確保できるように、分担に時間をかけないよう助言する。 ◆情報を適切に整理し、まとめている。 【オ 思考・判断・表現】(発言、ワークシート)
4 グループごとにどのように対処できるかを発表する。	○分析したことを基に、壁への対処法を提案するよう声掛けを行う。
5 本時を振り返る。(9分)	○本時の内容を振り返り、次にどのような活動をすればよいのか考えることができるようにする。

### (3) 板書計画



## 8 参観の視点

- (1) 「せたがや探究的な学び」に即した授業になっていたか。
- (2) クラスプロジェクトの課題を分析することで、次の活動につながる考えを児童がもっていたか。

## **(1) 研究協議**

### **① 学年より**

- ・地域に出かけ、解決したい課題を見付けた。そこからクラスでプロジェクトを決め、自分たちの意見をもとに考えられるような活動を計画した。
- ・諦めがちな実態に対して、協働して学ぶサイクルを繰り返すことで、体験体感を通しながら物事を実現できるよう成長してほしいと願っている。

### **② 授業者自評**

- ・1学期は「楽しい」をテーマに自由に児童に提案を考えさせることをメインとした。その結果、授業を見ると荒唐無稽な考えを話し合っているように感じたかもしれない。2学期は、本時の授業を基にして現実的な内容に変えていくことに取り組んでいく。そのためには、児童の考えの根底にあるものを抽出し、それをもとに現実的にしていく。恐らく、6年1組の提案の根底には「交通をよくしたい」「地域の魅力を発信したい」という2つがある。この2つを軸に提案を考え直していく。
- ・授業については、内容を盛り込みすぎたのが反省点だった。1時間の中で、「シンキングツール選び」「壁の分析」「解決策の発表」までを行った。もう少し内容を削減してもよかったように感じた。
- ・次につながる考えがもてていないのが課題。また、全員が協働的に学ぶことができていないことが課題だった。どんな解決策があるのか知りたい。

### **③ グループ協議より**

- 児童は、課題を自分事として捉えて考えていた。
- 協働的な学びのサイクルが回っているのが分かった。学級の雰囲気作りが良かったのかもしれない。
- 解決方法を意欲的に参加することができていた。
- △「トラブル」グループは「トラブル」の内容が広すぎて解決方法を考えるのが難しかった。
- △振り返りをしっかり共有すると話し合った細かい内容が伝わったのではないかな。
- △本時の内容であれば、90分間で実施してもよかったように感じた。

## **(2) 指導講評**      **【講師：棚橋 乾 先生】**

授業者が不安を感じながら授業を進めている印象があった。

もっている情報が少ない状態で話し合いを行っても、深めていくことは難しい。法律上バスの中で飲食ができるのかなど、子どもたちが大人に質問できる場所を用意するなどするとリアルに社会を知ることができる。インタビューなどで現実的な内容を知ったうえで対話を行ったほうがよかった。

話し合いの建付けがあいまいだった。事前にグループを分け、グループで保護者にインタビューをして予備知識を得ておく必要があった。

実際に大人の声聞いて、予備知識を付けることが大切。話し合いをただするのではなく、どう深めていくことができるのかを考えるとよい。

### **(3) 成果と課題**

#### **〈成果〉**

- ・シンキングツールを活用して話し合いを行うことができた。児童が適切なツールを選択して活用することができるようになってきた。
- ・主体的に学習に取り組み、問いを基に考えることができる児童が育ってきた。

#### **〈課題〉**

- ・対話をするためには予備知識がある程度必要だということが分かった。今後授業を計画する中で、「予備知識を得る」「対話をする」という連続した流れが必要となる。

### Ⅲ 成果と課題

#### 【成果】

- ・研究を通して、知りたいことを見つけることや自分の考えを深めることができる児童が増え、80%を超えた。特に、好奇心旺盛な児童や知りたいことを追求する児童が増えた。
- ・子どもたちが自分の興味・関心をもって、取り組む意欲が高まった。見通しをもって学習に取り組む方法を学び、すすんで取り組む姿が多く見られるようになった。
- ・「学んだことを次につなげる力」や「発表したり、伝え合ったりする力」は、3学期に増加した。活動を終え、振り返りを通じたことで、他の人にも伝えたい、もっとこうしたい等の思いが生まれた結果である。また、生活科・総合的な学習の発表会で人に伝えることを通して、コミュニケーション力が高められた。
- ・探求的な学びに意欲的に取り組むことができる児童が、昨年より増えた。



教師が、児童の知りたいことや見つけたいことを大切にし、主体的に活動できるよう「せたがや探求的な学び」を活用し、計画を立てた。その結果、児童は、自分が探求して学んだことを人に伝えたいという気持ちを高めることができた。

#### 【課題】

- ・発表したり伝え合ったりすることは、子どもによって、得意・不得意が分かれていた。不得意だと感じている児童も少なくない。
- ・発表を成功させたいというハードルに向けて苦手な児童にとって苦痛な時間になってしまった。
- ・学んだことを振り返り、次の学習の見通しをもつことが苦手な児童が2～3割いる。
- ・教師が学習のゴールを設定してしまったため、自分たちでやりたいことを考える機会をなくしてしまっただけ、学ぶ意欲が低下した児童がいた。



発表することに抵抗を感じる児童がいるので、伝え合うことを繰り返し行ったり、練習の時間を活用させたりすることで自信をもたせる。そして、相手に分かるように伝える方法を身につけることが課題である。



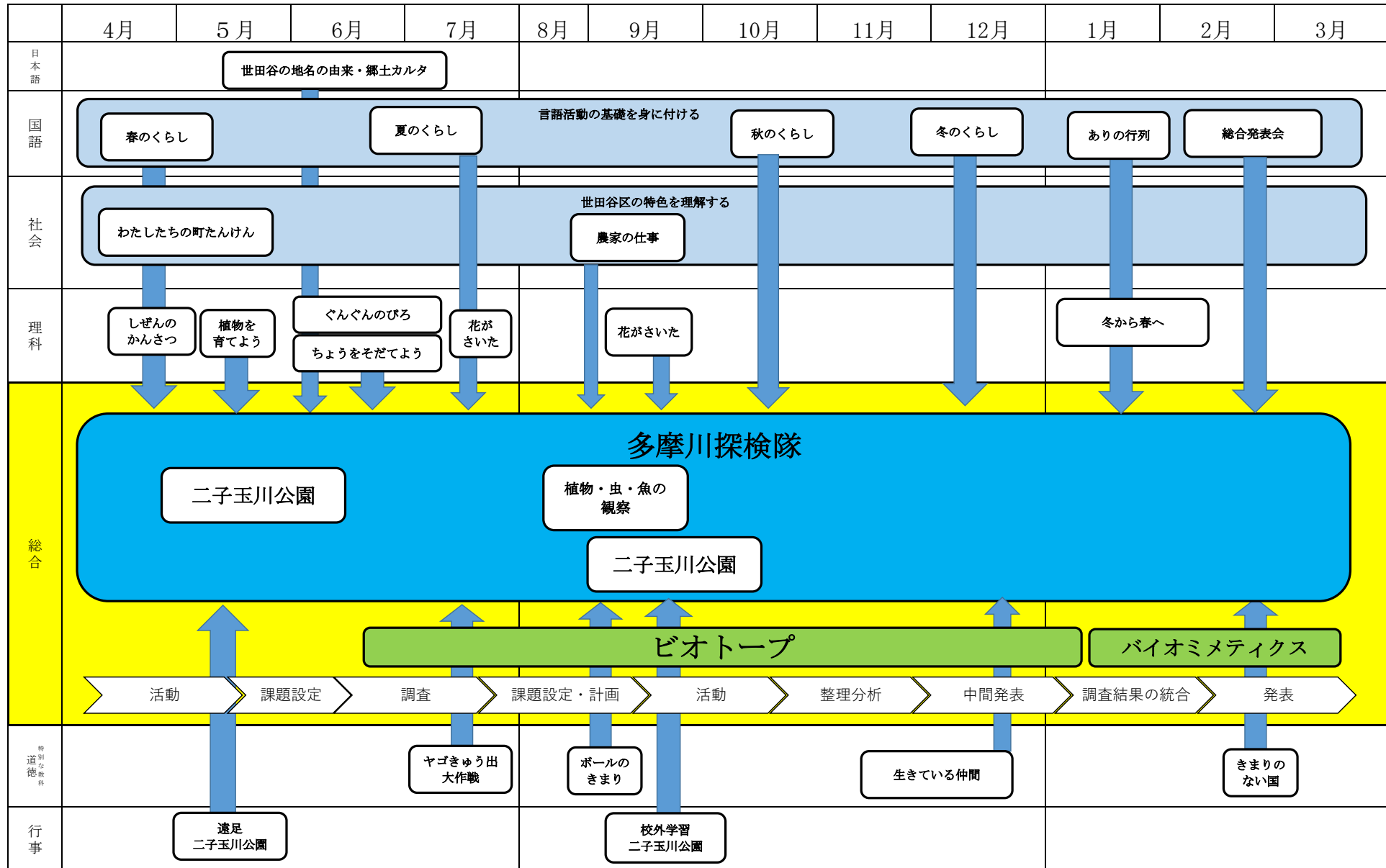
世田谷区立玉堤小学校 令和6年度ESDカレンダー（1年）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日本語	季節をたのしもう 春		季節をたのしもう 夏		季節をたのしもう 秋				季節をたのしもう 冬	はるなつあきふゆ		
算数					わかりやすく				大きいかず			
国語	はなのみち	ききたいな ともだちのはなし	すきなことなあに		ききたいな ともだちのはなし	しらせたいな 見せたいな	ともだちのこと しらせよう		ききたいなともだちのはなし これはなんでしょう	いいこと いっぱい一年生		
生活	はるみつけ	なつともだち		いきもの なかよし		みんなにこにこ だいさくせん		ふゆともだち	私たちの生活と森林			
	なかよしいっぱい がっこうたんけん		さかせたいな わたしのはな		あきともだち		もうすぐみんな2年生 保育園交流		生活発表会	もうすぐみんな 2年生		
							見つける → 考える → いっしょに → つなげる		見つける → 考える → いっしょに → つなげる			
特別 道徳 教科	みんな いきてる		あさがお	いきているって		おふるそうじ				やれば できるんだ	ちいさなふとん	
特別 活動			おたのしみかいをし よう		おたのしみかいをし よう				6年生送るかいの じゅんぴをしよう	新1年生を迎える じゅんぴをしよう		
音楽	はくにとってリズム をうとう		みのまわりのおとに みみをすまそう				みんなであわせた のしもう					
図 工			さわってまぜてきもちいい		はことはこをくみあわせて							
行事	運動会											6年生を送る会

世田谷区立玉堤小学校 令和6年度ESDカレンダー（2年）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日本語	季節を感じる ことばをさがそう										昔から伝わる 遊びを楽しもう	一年間の学習を 振り返ろう	
算数											はこの形		
国語	春がいっぱい	たんぼぼのちえ かんさつ名人 になろう	こんなもの、 見つけたよ	夏がいっぱい	秋がいっぱい	紙コップ花火の 作り方		冬がいっぱい	楽しかったよ、 2年生				
生活	わくわくするね 2年生	ぐんぐんそだておいしいやさい			小さなともだち	花をそだてよう		あそんでためしてくふうして		広がれ わたし			
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
特別な 徳科道	大きくなったね	ぼんたと かんだ		虫が大すき -アンリ・ファーブルー-									
特別 活動	2年生に なって							感謝の心を もとう		一年間を 振り返ろう			
音楽							日本のうたで つながろう						
図工	みんなでワイワイ 紙けん玉			かぶって へんしん		めざせ！カッター ナイフ名人		くっつき マスコット					
行事							6年生を送る会						

世田谷区立玉堤小学校 令和6年度ESDカレンダー（ 3年 ）

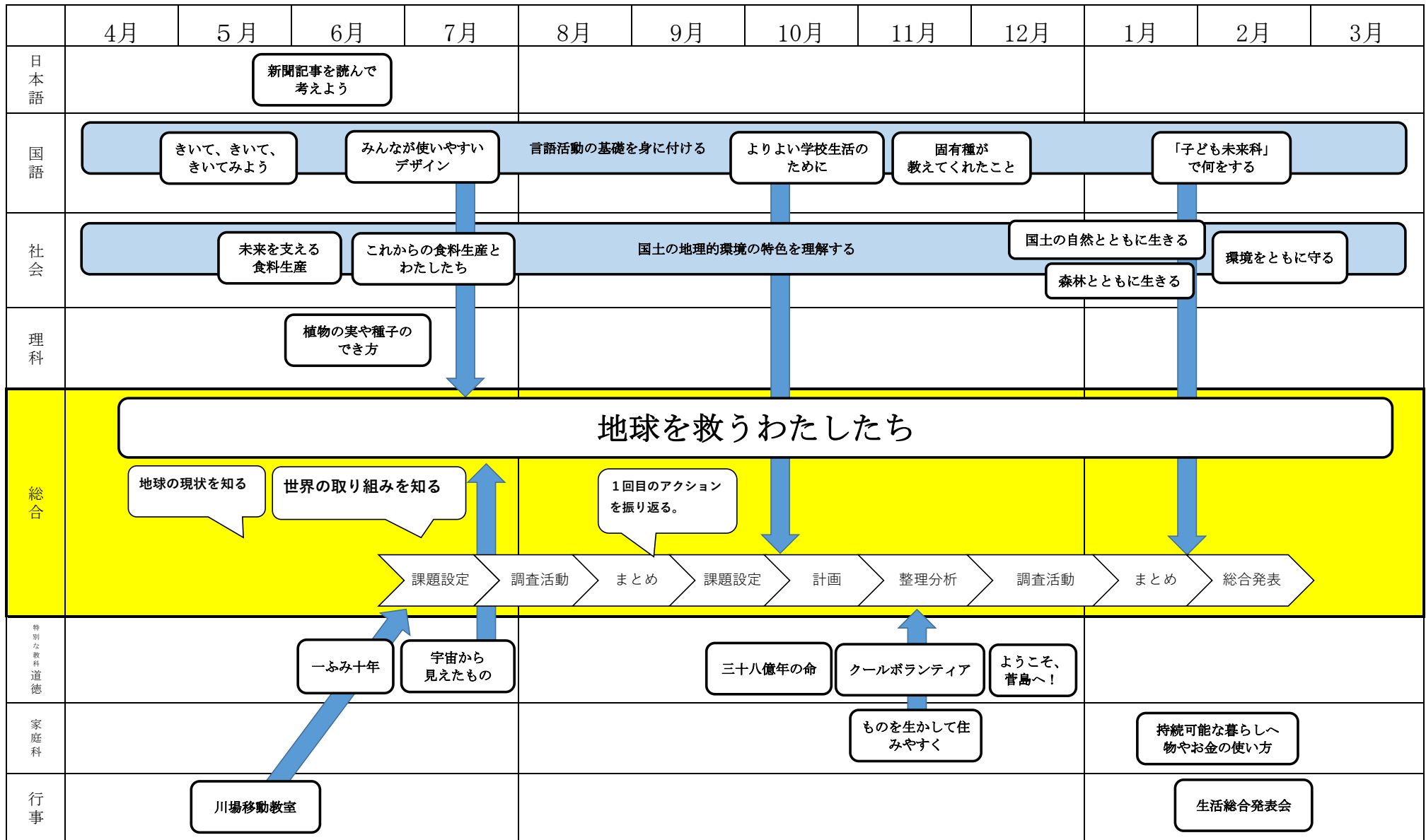


# 世田谷区立玉堤小学校 令和6年度ESDカレンダー（4年）

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日本語						一冊の本から 一冊を読んで友達に伝えよう					
国語	力を合わせて ばらばらに	思いやりのデザイン 聞き取りメモのくふう	新聞をつくらう 本は友達		あなたなら、どう言う パンフレットを読もう	百科事典の調べ方		風船でうちゅうへ		調べて話そう、 生活調査隊	
社会			自然災害から人々を 守る				ごみの処理と利用				
算数		折れ線グラフ と表		がい数		計算のきまり					
理科					わたしたちの体と運動						
総合	だれもが関わり合うために ～パラリンピック種目をつくらう～				だれもが関わり合うために ～ごみごみダイエット大作戦～						
	つかむ → 調べる → まとめる → 発表する				つかむ → 調べる → まとめる → 発表する						
特別な 徳 特道		決めつけないで	ええことするのは ええもんや!		いじりといじめ			心と心のあくしゅ			
特別 活動					友達のよいところを みつけよう			性の多様性 <養護教諭との連携>			
その他		【保健体育】 育ちゆく体とわたし	【外国語活動】 お気に入りの場所を								

○ゲストティーチャー  
・笑顔と学びの体験活動プロジェクト  
日本ゴールボール協会  
・日本障害者サッカー協会

世田谷区立玉堤小学校 令和6年度ESDカレンダー（ 5年 ）



世田谷区立玉堤小学校 令和6年度ESDカレンダー（ 6年 ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日本語	職業について理解し、誰かのために働こうとする態度を養う。											
国語	聞いて考えを深めよう みんなで楽しく過ごすために 言語活動の基礎を身に付ける 今、わたしは、ぼくは 海の命											
社会	わたしたちのくらしと日本国憲法	子育て支援の願いを実現する政治	社会の仕組みと平和につながる人々のはたらきに気付くことができる。					世界に歩み出した日本	日本とつながりの深い国々	世界の未来と日本の役割		
理科	植物の養分と水		生物のくらしと環境			大地のつくりと変化			人と環境			
家庭科	わたしの生活時間	暑い季節を快適に	ものを生かして住みやすく					持続可能な暮らしへ物やお金の使い方				
総合	帰ってきたい玉堤～玉堤の未来を考える～											
	キャリア教育											
総合	【持続可能な社会の視点】 ・脱炭素社会 ・循環型社会 ・生物多様性 など	GTによるお話										
総合	課題設定	調査	目指す玉堤像を考える	解決方法	中間発表	課題設定	調査活動	整理分析	まとめ	アクションの実行	総合発表	
特別な教科道	緑の闘士 —ワンガリ・マータイ—		天下の名城をよみがえらせる—姫路城—					iPS細胞の向こうに				
特別活動												卒業に向けて
体育												病気の予防
図工												よりよい町とは
音楽	龍神太鼓		世界の国々の音楽									
行事					日光林間学園			エコプロ				